

# FICO® Xpress Optimization

日本語版

インストールレーションガイド

更新日:2019年4月

8.5

INSTALLATION GUIDE

FICO® Xpress Installation Guide

**FICO** Decisions

## 目次

この度は Xpress 製品をご評価、ご購入いただきありがとうございます。	2
<b>1. ライセンスファイルの取得・申請方法</b>	3
1.1 ライセンスの申請を行う	3
1.2 Host-ID 取り出しツールを取得するには	3
1.3 Static( DeskTop)ライセンスの申請: Xpress ソフトウェアをインストールする	3
1.3.1 ダウンロード(または USB など取得した)した zip ファイルを展開する	3
<b>2 Host-ID を確認する</b>	11
<b>3. Xpress にライセンスファイルを設定する</b>	12
<b>4. Xpress を手動でインストールする(インストーラが正常に動作しなかった場合)</b>	13
<b>5. ライセンスにdongleを使用する場合の Xpress セットアップ・アプリケーションの設定方法</b>	14
5.1 Dongleとは(Dongleライセンスのメリット)	14
5.2 Static ライセンス Dongle使用設定する方法	14
5.3 HASP dongle device driver のインストール	15
5.4 インストール設定後、PC がdongleライセンスを識別しない場合	15
<b>6. Floating ライセンスの設定と申請方法 (Server 側の設定)</b>	16
6.1 Floating License とは	16
6.2 Floating ライセンス Host-ID 取り出しツールを取得するには	16
6.3 ダウンロード(または USB データなどで取得した)した zip ファイルを展開する	17
6.4 Host-ID を確認し、ライセンス申請を行う	22
6.5 Floating ライセンス Server 側 Dongleライセンスを使用する場合	22
<b>7 Floating ライセンス Client 側の設定方法</b>	26
<b>8. 1つの PC にクライアント設定とサーバ設定を行う場合</b>	31
<b>9. ライセンスマネージャを停止させる</b>	31
<b>10. TCP ポート追加設定</b>	31
<b>11. Floating ライセンスのログイン方法</b>	32
<b>12. Dongleライセンス番号確認方法</b>	32
12.1 HASP dongle device driver のインストール	32
12.2 Dongle・ドライバの手動インストール方法	32
12.3 ライセンスの状況を確認する	32
<b>13. Linux OS に Xpress をインストールする</b>	33
13.1. Linux/Unix に Xpress をインストールし、ライセンスファイルの申請を行う	33
13.2. Host-ID 取り出しツールを取得するには	33
13.3 ライセンスを設定する(Linux OS)	34

13.4 Linux OS でライセンスに dongle を使用する場合 .....	34
14. ライセンス設定に関するエラーメッセージと解決法 .....	36
14.1 ライセンス設定でエラーが生じた場合のトラブルシューティング .....	38
15 アプリケーションと Enterprise (企業向け) ライセンスの設定 .....	39
15.1 VMware で HASP Dongle を使用する .....	39
15.2 Microsoft Virtual PC で HASP Dongle を使用する .....	41
16. データベース .....	42
17 Xpress のアップグレード、Patch ファイルの適用方法 .....	42

## この度は Xpress 製品をご評価、ご購入いただきありがとうございます。

- 当ガイドは Xpress ライセンス設定およびのインストール手順を掲載しています。
- Xpress ソフトウェアを当ガイドの手順に従ってインストールし、セットアップを行ってからライセンス申請を行ってください。
- お客様がご使用になるライセンスタイプの手順に従って Xpress の設定を行ってください。
- 評価用ライセンスは、Static License 設定のみです。
- 当ガイドに掲載されている画像は 32bit 版の PC でセットアップした際に表示される画面を掲載しています。お客様のご使用になる環境によって表示される画面が異なる場合があります。
- Xpress のご使用前に、Xpress 日本配給元 MSI にライセンス取得の申請を行い、ライセンスファイル xpauth.xpr を取得してください。Xpress を最新版\*1 にアップグレードする場合もライセンスのアップグレードを MSI に申請し、新しいライセンスファイル xpauth.xpr を取得してください。

\*1 現在、Xpress (または 8.0 以前)のライセンスを取得されている場合、Xpress8.0 を使用するには、ライセンスのアップグレードが必要です。

保守・サポート契約を締結しているお客様へ：アップグレード料金は年間サポート料金に含まれています。アップグレードをご希望のお客様は、下記メールアドレスまでお問合せください。

MSI Xpress 事業部 ライセンス担当：芝原 noriko.shibahara@msi-jp.com

# 1. ライセンスファイルの取得・申請方法

## 1.1 ライセンスの申請を行う

MSI Xpress 事業部にライセンス申請を行う際に、Xpress ソフトウェアを導入するマシンの Host-ID が必要となります。Host-ID をご確認頂くには、Xpress ソフトウェアのインストールが必要です。

### \*1 Host-ID とは

PC 一台、一台を識別するために割り振られた 12 桁の番号を指します。

Xpress で提供している専用の Host-ID 取り出しツールを使用してご確認ください。

注:PC の製造番号、ネットワーク番号などとは異なります。Host-ID のご確認は必ず、xphostid.exe アプリケーションをご利用ください。その他の番号では正しいライセンスファイルを作成、ご提供することができません。

## 1.2 Host-ID 取り出しツールを取得するには

Xpress ソフトウェアに Host-ID 取り出しツール「xphostid.exe」が含まれています。Xpress ソフトウェアは「xp8.0\_win32\_setup」、「xp8.0\_win64\_setup」、「xp8.0\_linux64\_setup」または「xp8.0\_linux32\_setup」などお客様の OS に対応した Xpress ソフトウェアを導入ください。

注:32bit 版の PC をお使いの場合は 32bit 用のアプリケーションをインストールください。64bit/84bit 版の PC の場合は、64bit/84bit 用のアプリケーションをインストールください。

\*1 弊社 WEB サイト>ダウンロードページには Windows 用 Xpress ソフトウェアのみを掲載しています。Linux・Unix をご利用のお客様は Xpress 事業部までお問合せください。

お問合せ先:[xpress@msi-jp.com](mailto:xpress@msi-jp.com)(担当:芝原)

## 1.3 Static( DeskTop)ライセンスの申請: Xpress ソフトウェアをインストールする

当ガイドでは、Windows OS を使用した際の画面表示で設定手順を掲載しております。

お客様のお使いの OS が異なる場合、表示される画面が異なる場合がございます。

予めご了承いただきお願い申し上げます。

\* Windows に Xpress をインストールする際に、Installshield インストーラを使用します。  
Installshield インストーラは、Xpress パッケージ(zip 形式)に含まれ、自動的に実行します。

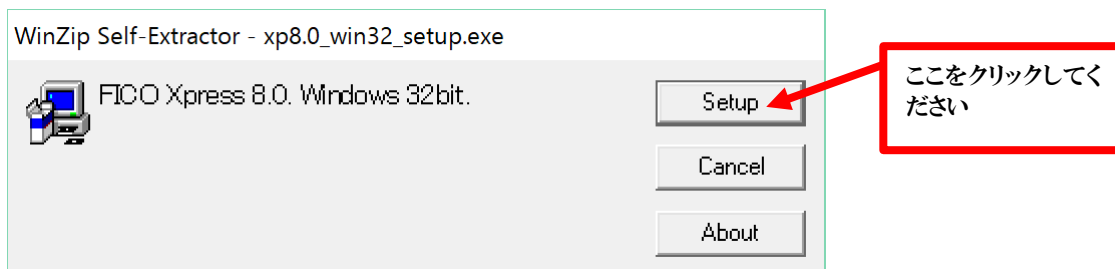
### 1.3.1 ダウンロード(または USB などで取得した)した zip ファイルを展開する

① 取得した Xpress ソフトウェアは、デフォルト設定でダウンロードフォルダに保存されています。  
(ユーザー指定保存場所に保存した場合はそこを参照ください)

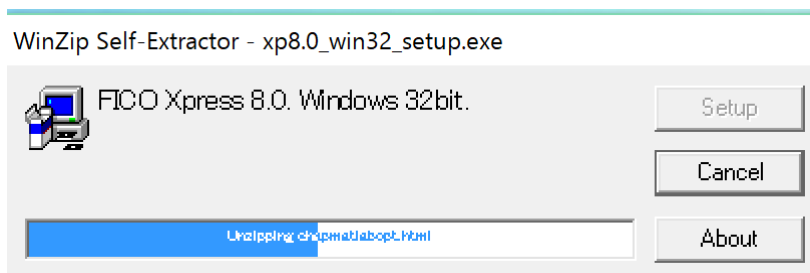
ダウンロードフォルダへ入り、「xp8.0\_●●\_setup」アプリケーションにカーソルを合わせ、ダブルクリ

ックし、ファイルを展開してください。下記の画面が表示されます。

「setup」をクリックしてください。\*セットアップを中断する場合、「Cancel」を選択してください。



② 「Setup」をクリックすると、下記のように WinZip が展開 >> インストール準備を開始します。

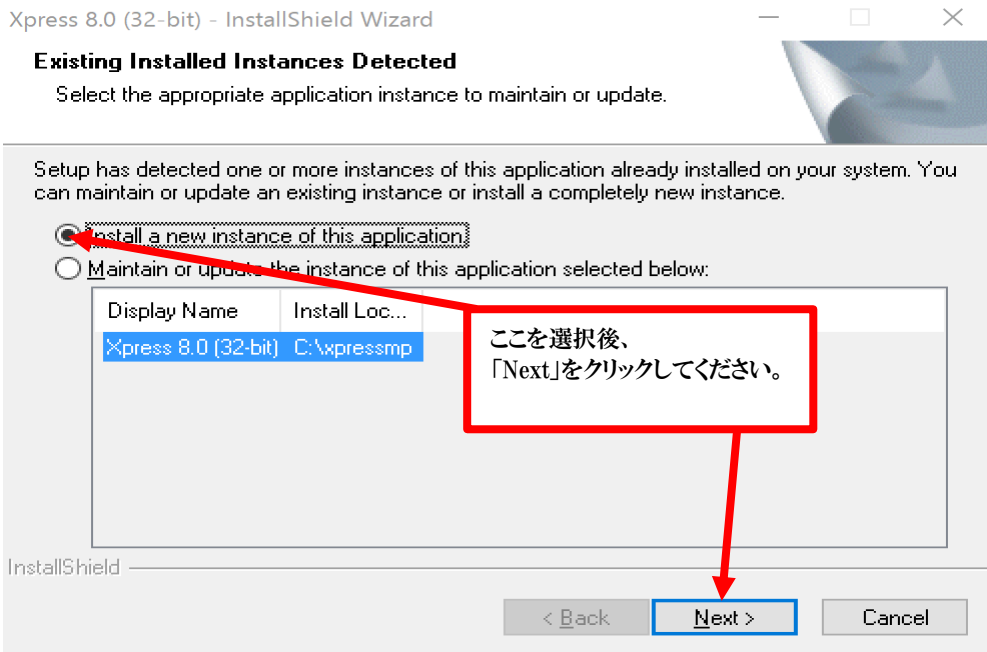


③ 次に下記の画面が表示されます。ここでは新しいアプリケーションとしてソフトウェアインストールを行います。\*バッチファイルの適用に関する設定方法は P44を参照ください。

「Install a new instance of this application」を選択してください。

- デフォルト設定のインストール先は「Cドライブ」です。
- 生成されるファイル名:「xprssmp」です。

「Next」をクリックし、先へ進みます。

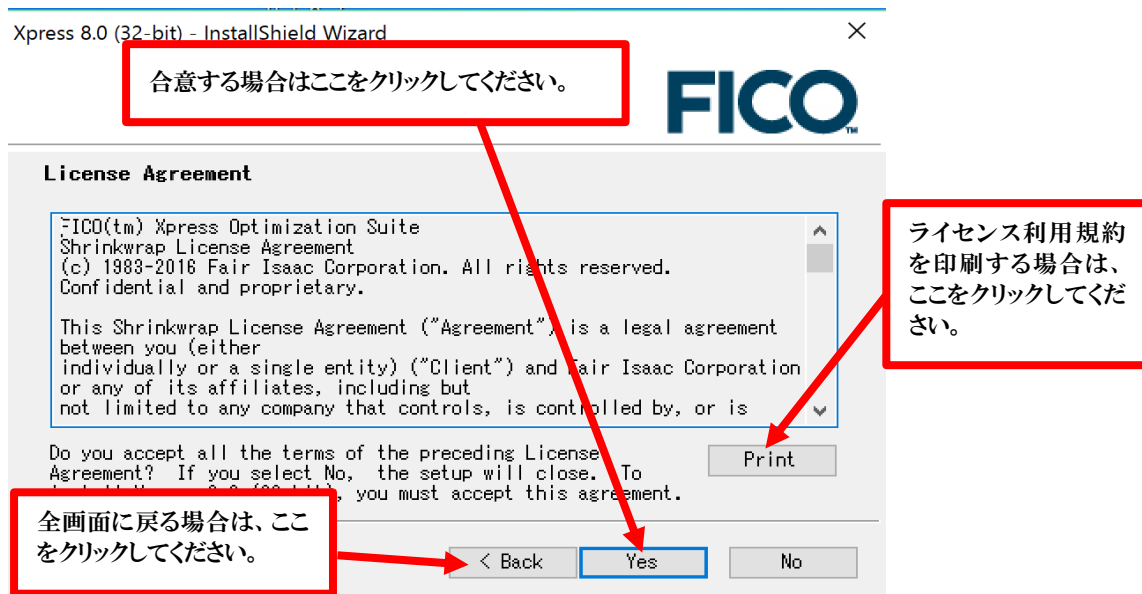


- ④続いて下記の画面が表示されます。セットアップに必要な installshield の準備が完了しました。インストールを続行する場合は、「Next」をクリックしてください。中断する場合は「Cancel」を選択してください。



- ⑤次に、Xpress ライセンス利用規約が表示されます。大変重要ですので、よくお読みになった上で利用規約に同意してください。ライセンス利用規約を印刷する場合、「Print」をクリックします。利用規約に同意する場合、「Yes」をクリックし、同意しない場合「No」をク

リックしてインストーラの実行を終了してください。



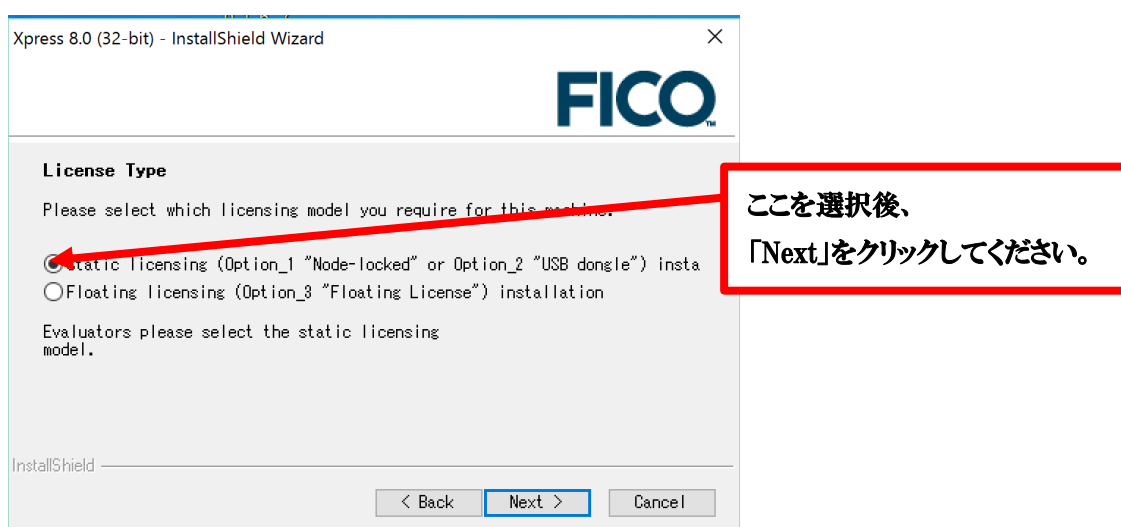
⑥次にお使いになるライセンスの種類を選択します。

ここでは、Static ライセンスを設定していきます。「Static licensing」を選択し、「Next」をクリックしてください。

Static License とは:Xpress を一台の PC にインストールし、他の PC で使用しない場合、評価ライセンスを使用する場合に使用するライセンスです。同時に最大 1 つの問題を解決できます。このライセンスでは、ターミナルサービス 1 のセッションによるリモートでの使用はできません。

注:Static License option を選択し、Xpress ライセンスに dongle を使用する場合、他の PC に dongle を付け替えることは可能ですが、ソフトウェアの同時使用はできません。

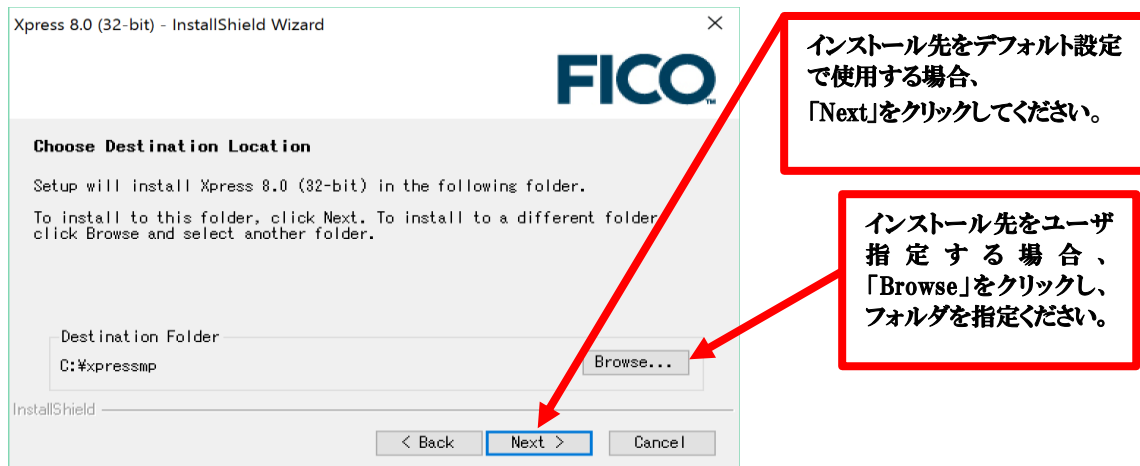
Floating ライセンスの設定方法は P18 を参照ください。





⑦ 「xpressmp」ファイルのインストール先を指定してください。「Browse」をクリックし、インストール先を指定してください。「Next」をクリックし先へ進みます。

デフォルトの保存先は「Cドライブ」です。このガイドではデフォルトのフォルダに保存しています。



⑧ ライセンスに dongle を使用するか選択してください。この章では dongle を設定しません。

「No」を選択し。「Next」をクリックします。

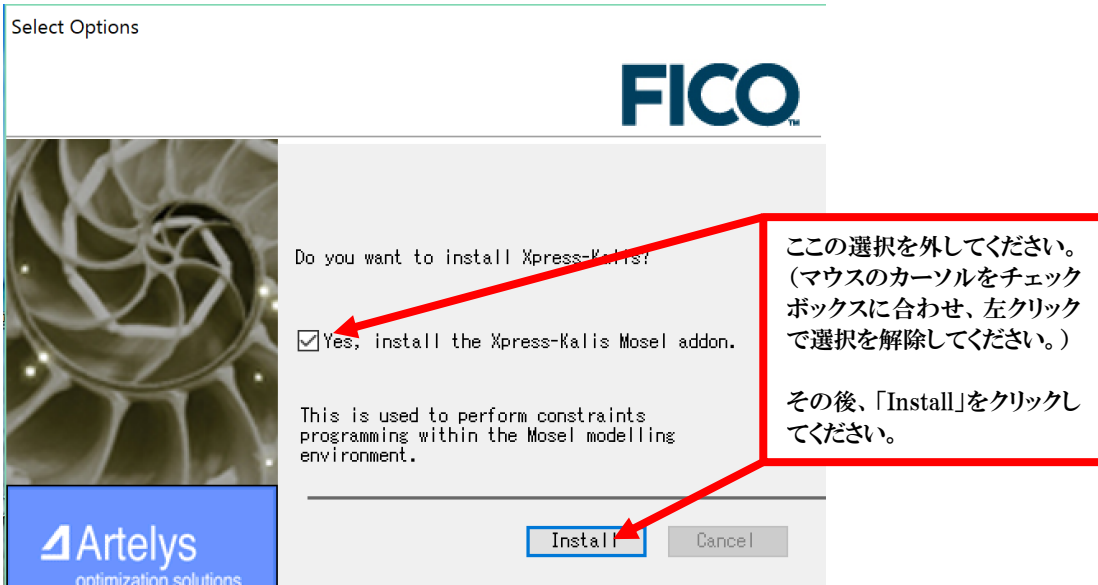
\*ライセンスに dongle を使用する場合の設定方法は P16 を参照ください。

この設定後に dongle が必要になった場合は後日、再設定することが可能です。

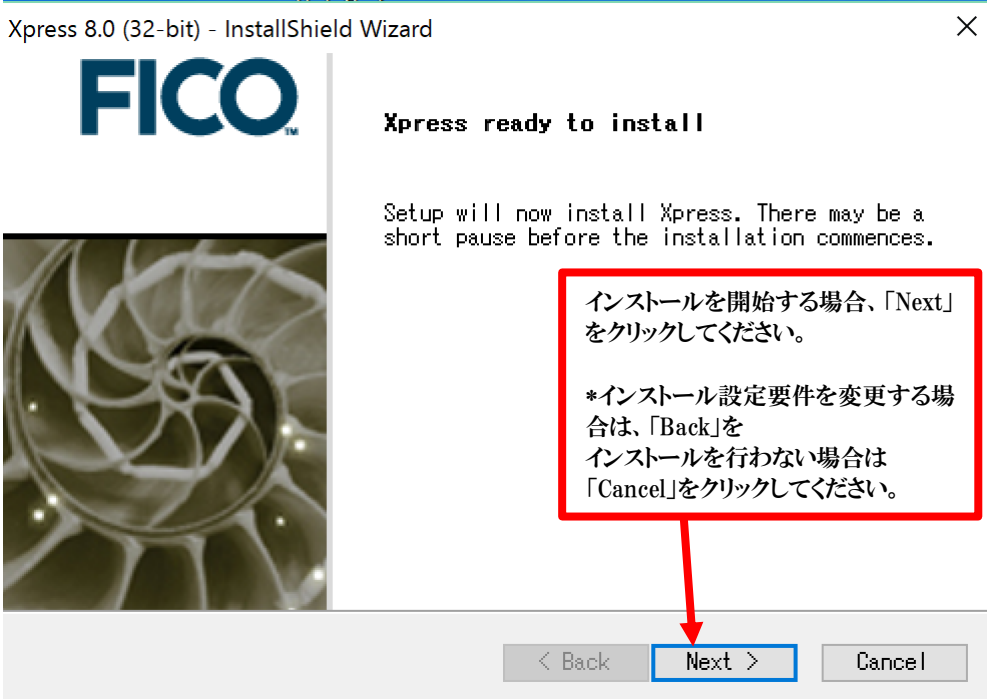


⑨ Xpress-kalis をインストールするか選択します。当ガイドでは kalis を設定していません。

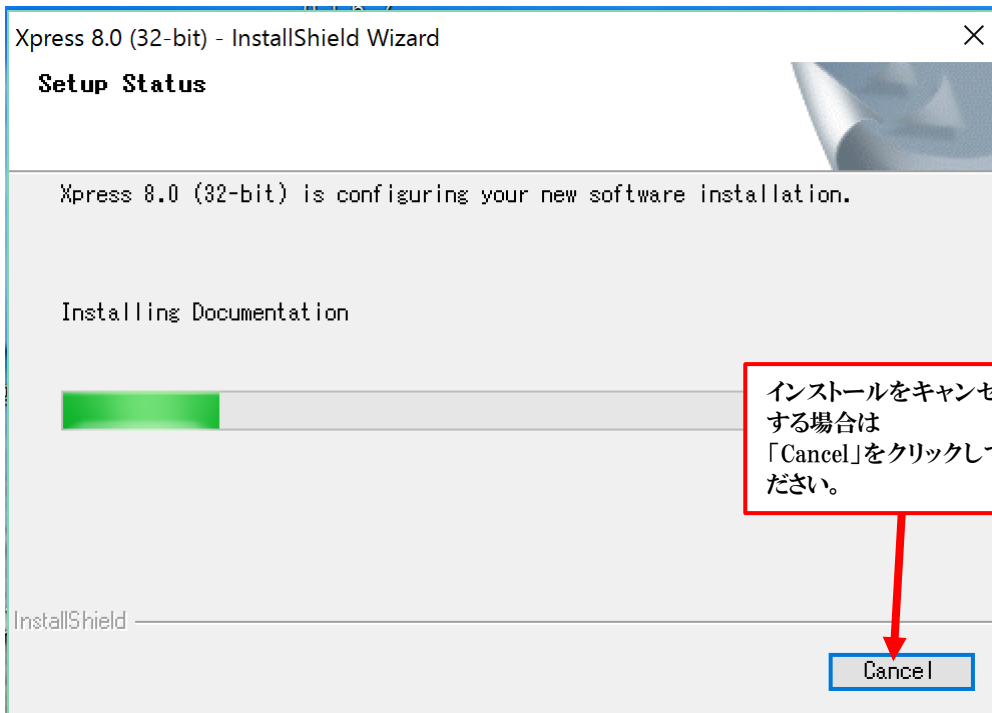
チェックボックスの選択を外し、「install」をクリックしてください。



⑩ Xpress のインストール要件の設定が完了しました。インストールを開始する場合は、「Next」をクリックしてください。再度、設定を変更する場合は、「Back」をクリックし設定を変更してください。



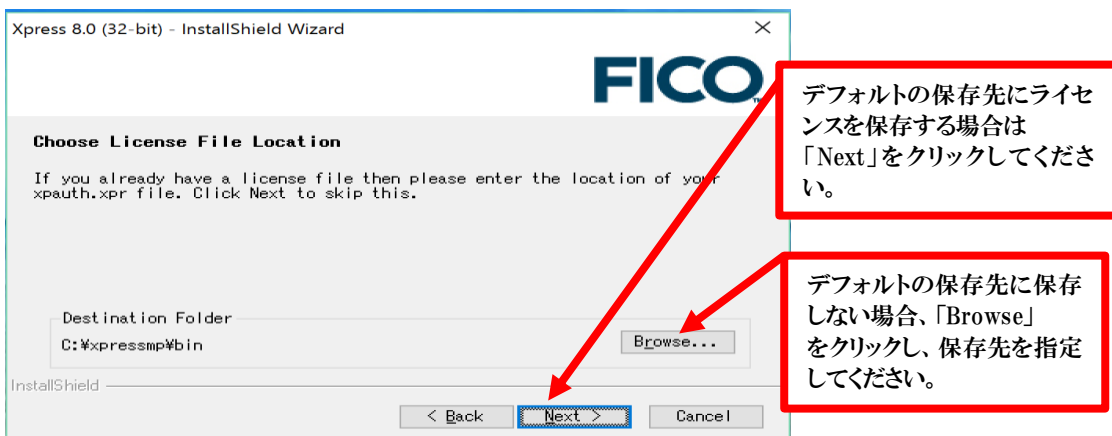
⑪インストールが完了するまでしばらくお待ちください。  
この章で設定されたライセンス要件は、Static ライセンス使用・ dongle 使用なしです。



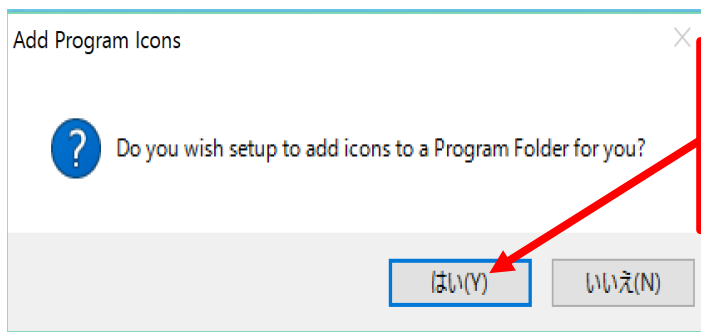
⑫ 「Xpress ライセンスファイル xpauth.xpr を保存したフォルダを選択してください。」

と表示されます。正式なライセンスの申請は Xpress インストール後に行います。

Xpress ライセンスファイルを取得していない場合、一時的なプレースライセンスファイルが生成されます。このプレースライセンスの中身は「空」です。正式なライセンスファイルを取得後、置換してください。ここではライセンスの保存先はデフォルト設定を使用します。デフォルトの保存先は C ドライブ >> xpressmp >> bin です。ユーザ指定フォルダに保存したい場合、「Browse」をクリックし、フォルダを選択しますライセンスファイルを取得していない場合、一時的な仮のライセンスファイルが生成されています。ユーザ指定のフォルダに保存している場合は、「browse」をクリックし、フォルダを指定してください。

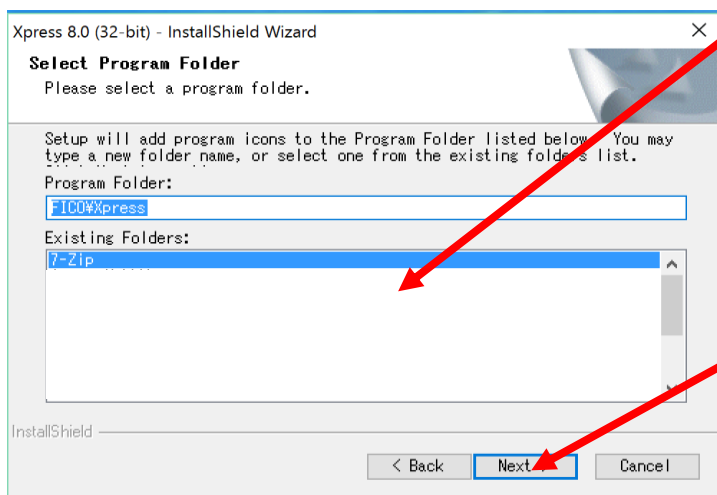


⑬ Xpress アプリケーションを Windows スタートメニューのアイコンに追加する場合、「はい(Y)」をクリックします。当ガイドではアイコン追加設定を行った手順を掲載しています。



設定する場合は「はい」を設定しない場合は「いいえ」をクリックしてください。

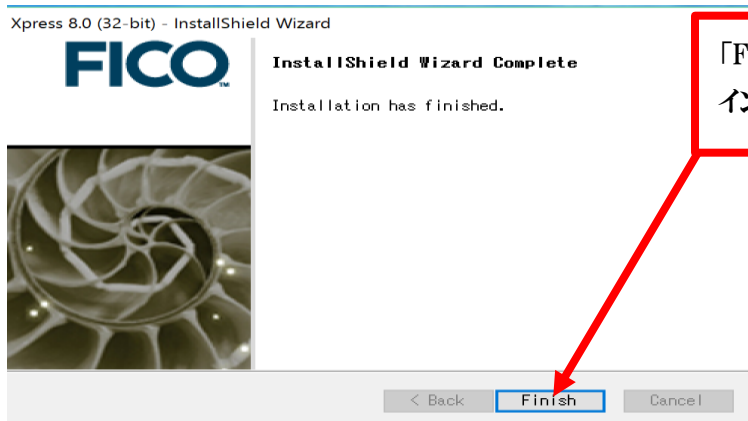
⑭ Xpress アプリケーション (プログラム) の保存先フォルダを設定します。(デフォルトの保存先は FICO >> Xpress です。) 選択後、「Next」をクリックします。



\*保存先フォルダを選択してください。デフォルト以外の保存先を使用する場合は、新しいフォルダを作成するか、既存フォルダリストから保存先を指定してください。

選択後、「Next」をクリックしてください。

⑮ Xpress のインストールが完了しました。「Finish」をクリックし、インストーラを終了させてください。



「Finish」をクリックすると、インストーラが終了します。

## 2 Host-IDを確認する

続いて、ライセンス取得に必要な「Host-ID」を確認するため下記のステップを行ってください。

「Xpressmp」ファイルが C ドライブに生成されています。(デフォルトの保存先以外をご指定頂いている方は、指定フォルダに生成されています。)生成されているか、C ドライブを開きファイルが存在するかご確認ください。ファイルが存在しない場合、インストールが正常に行われなかった可能性があります。再度、インストール手順を実行するか、状況を MSI 事業部までお問合せください。

⑫Cドライブに生成された「xpressmp」ファイルをクリックします。

xpressmp 2016/08/09 21:31 ファイル フォルダ

⑬ 「xpressmp」ファイルを開く>>続いて「bin ファイル」をクリックしてください。

名前	更新日時	種類	サイズ
bin	2016/08/09 21:31	ファイル フォルダ	
docs	2016/08/09 21:30	ファイル フォルダ	
dso	2016/08/09 21:31	ファイル フォルダ	
examples	2016/08/09 21:31	ファイル フォルダ	
include	2016/08/09 21:31	ファイル フォルダ	
lib	2016/08/09 21:31	ファイル フォルダ	
licenses	2016/08/09 21:31	ファイル フォルダ	
matlab	2016/08/09 21:31	ファイル フォルダ	
readme	2016/08/09 21:31	ファイル フォルダ	
tools	2016/08/09 21:31	ファイル フォルダ	
license	2016/05/09 16:59	テキスト ドキュメント	49 KB
readme	2016/05/09 16:59	HTML ファイル	27 KB
relnotes	2016/05/09 16:59	HTML ファイル	317 KB
version	2016/05/09 16:59	テキスト ドキュメント	1 KB

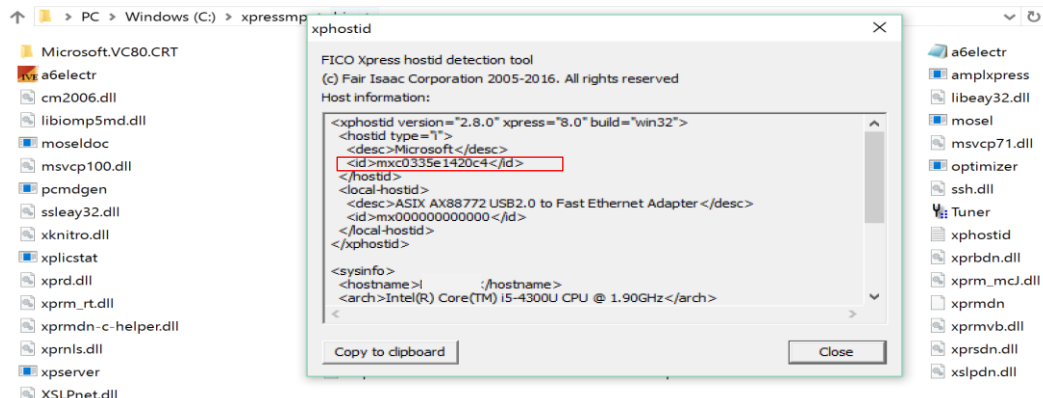
⑭bin ファイルを開くと下記のリストが表示されます。

リスト内にある「xphostid」が、Host-ID 取り出しツールです。

このアプリケーションをクリックしてください。

名前	更新日時	種類	サイズ
Microsoft.VC80.CRT		ファイル フォルダ	
a6electr		ファイル	
cm2006.dll		ファイル	
libiomp5md.dll		ファイル	
mosel.doc		ファイル	
msvc7100.dll		ファイル	
pcmdgen		ファイル	
ssleay32.dll		ファイル	
xknitron.dll		ファイル	
xplicstat		ファイル	
xprd.dll		ファイル	
xprm_rt.dll		ファイル	
xprmdn-c-helper.dll		ファイル	
xprnls.dll		ファイル	
xpsrver		ファイル	
XSLPnet.dll		ファイル	
Microsoft.VC80.MFC		ファイル フォルダ	
a6electrg		ファイル	
IVE		ファイル	
libxl.dll		ファイル	
mplink		ファイル	
msvcr71.dll		ファイル	
readme_SRAssist		ファイル	
tcl84.dll		ファイル	
xknitron1.dll		ファイル	
xprb.dll		ファイル	
xprl.dll		ファイル	
xprm_rt1.dll		ファイル	
xprmsrv		ファイル	
xprnls		ファイル	
xslp.dll		ファイル	
Tools_SRAssist		ファイル フォルダ	
aec2setup		ファイル	
javaxprs.dll		ファイル	
mmssl		ファイル	
mpscpc		ファイル	
msvcr100.dll		ファイル	
runlmgr		ファイル	
ToolkitPro1202vc80.dll		ファイル	
xphostid		ファイル	
xprb_J.dll		ファイル	
xprm_mc.dll		ファイル	
xprmdn.dll		ファイル	
xprmsrv_rsa.pem		ファイル	
xprs.dll		ファイル	
xslp		ファイル	
a6electr		ファイル	
amplxpress		ファイル	
libeay32.dll		ファイル	
mosel		ファイル	
msvc71.dll		ファイル	
optimizer		ファイル	
Tuner		ファイル	
xphostid		ファイル	
xprbdn.dll		ファイル	
xprm_mcJ.dll		ファイル	
xprmdn		ファイル	
xprmvb.dll		ファイル	
xprsdn.dll		ファイル	
xslpdn.dll		ファイル	

⑮「xphostid」をクリックすると下記のように別枠ウィンドウが開き、お客様が現在使用されている PC の Host-ID が表示されます。注:ID を分かりやすくするためここでは ID 番号を赤枠で囲っています。通常、赤枠は表示されません。またこの番号は PC 毎に異なります。

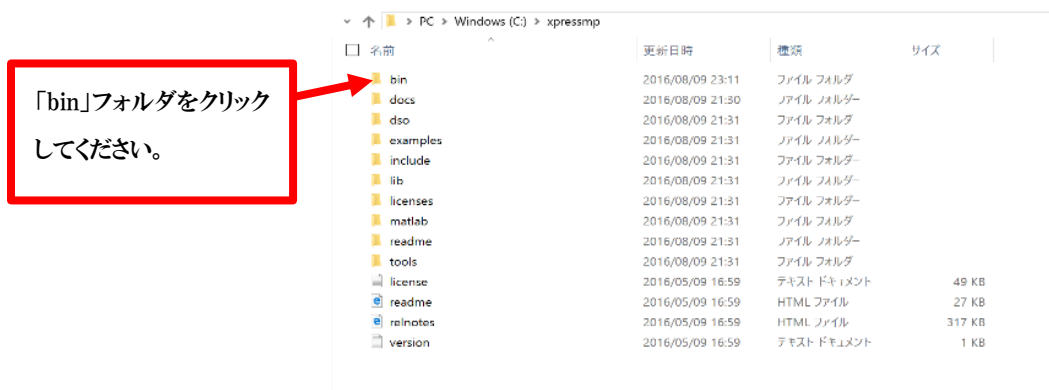


⑯この作業でご確認頂いた「Host-ID」を下記のメールアドレスまでお知らせください。[noriko.shibahara@msi-jp.com](mailto:noriko.shibahara@msi-jp.com) (担当:芝原) 折り返し、Xpress ライセンスをメール添付でご連絡申し上げます。

### 3. Xpress にライセンスファイルを設定する

MSI Xpress 事業部から「Xpress ライセンスファイル」が届きましたら、下記のステップを行い、Xpress にライセンスを設定してください。

- ① メールに添付されて届いたライセンスファイルを、PC のデスクトップ画面にコピーしてください。
- ② 「Xpressmp」フォルダを開きます。デフォルトの保存先は C ドライブです。保存先をユーザ指定した場合は、指定した保存先を参照してください。
- ③ 「Xpressmp」ファイル内にある、「bin」ファイルをクリックし、ファイルを開いてください。



④ 「bin」ファイルを開くと、既にライセンスファイルが格納されています。このライセンスファイルは、インストール時に生成される「空の一時的なライセンスファイル」です。

Xpress を起動させるために必要な情報は一切記載されていません。この空のライセンスファイルに正式なライセンスファイル(デスクトップにコピーした)で上書きしてください。

以上で、ライセンスファイルの設定は完了です。

## 4. Xpress を手動でインストールする(インストーラが正常に動作しなかった場合)

インストーラが正常に動作しなかった場合、Xpress ソフトウェアを手動で展開してください。

### ●手動で Windows OS にインストールする

手動設定を行うには、PC に Zip ファイル解凍・展開(WinZip または WinRar)するためのプログラムが事前にインストールされている必要があります。このプログラムがインストールされていない場合は、(ここからの URL 探す)ここから Zip 解凍・展開プログラムをインストールしてください。

Zip 展開・解凍プログラムは上記以外の類似プログラムでも実行可能ですが、Winzip、WinRar を推奨しています。

インストーラによる自動インストール設定と手動によるインストール設定の差異点は下記の通りです。

- ・ファイルは選択してインストールできません。アーカイブ全体が解凍>>展開されます。
- ・全環境変数は自動的に設定されません。
- ・ドングルドライバのインストールは自動的に実行されません。
- ・スタートメニューに自動的にファイルのショートカットは生成されません。必要に応じて、手動で生成してください。
- ・XPserver ライセンスマネージャは Windows サービスとして実行するための設定は自動的に行われません。

InstallShield を使うインストールに失敗した場合、ファイルは Zip から解凍・展開できる任意のプログラムを使用して展開してください。

1. ダウンロードしたインストールファイルの拡張子.exe to .zip を変更してください。
2. Zip ファイルからインストールするフォルダへファイルを展開してください。
3. インストールした Xpressmp フォルダ内>>bin フォルダにライセンスを置換してください。
4. license.txt ファイルをよくお読みになり、契条項に同意してください。(同意し兼ねる場合、ソフトウェアのインストールを停止し、アンインストールしてください。)
5. 環境変数 XPRESSDIR を追加しインストール・ディレクトリの xpressmp フォルダを示します。新しい環境変数を作成するために次の手順で設定してください。スタートメニューから>Setting>Control Panel>System>Advanced> Environment Variables に入り設定してください。フルパスを使用してください。
6. PATH 環境変数にパス%XPRESSDIR%/bin を追加してください。(これは関連する Xpress ライブラリと実行形式を見つけ出します。)
7. プログラムへのリンクをスタートメニューに追加する場合、スタートメニュー>設定>タスクバーとスタートメニューを選択してください。スタートメニューをクリックし、カスタマイズをクリックし、追加を

クリックします。スタートメニューにプログラムを追加できるように Microsoft Windows wizard が表示されます。その他数多くの実行可能形式を利用頂けますが、基本的なリンク先として Optimizer.exe や IVE.exe を追加することも可能です。(インストール・ディレクトリ内>bin フォルダをご確認ください。)

## 5. ライセンスに dongle を使用する場合の Xpress セットアップ・アプリケーションの設定方法 (static/DeskTop ライセンスの場合)

### 5.1 Dongle とは (Dongle ライセンスのメリット)

Windows 環境で Dongle ライセンスを使用することができます。(Host ID や PC のイーサネットアドレスというよりも、Dongle でロックされています。)

ライセンスファイルが必要です: PC の Host ID、またはイーサネットアドレスの代わりに、4桁の Dongle 番号が含まれています。

Dongle は、ライセンスファイルはロックする独自の 4桁の Dongle 番号を提供するためにのみ使用されます。ライセンスは Dongle を現在、装着している PC 上で実行した場合、有効です。ライセンスが Static または Floating か、Xpress で許可されたリリースであるかに関わらず、許可された Xpress 機能を含め、全ライセンス情報がライセンスファイルに含まれています。

インストール設定のこの段階で、ライセンスキーに Dongle (Dongle) を使用するかどうか指定します。(Dongle の形状は、USB メモリースティックに類似しています。)

Dongle は、複数のマシンで Xpress を使用する場合、同時に 1台のマシン上で Xpress の実行が可能です。このオプションは、特定のマシンにライセンスを固定するのではなく、特定のライセンスを Dongle に固定したい場合、大変便利です。

例: 職場の PC にライセンスを固定するのではなく、自宅の PC でも Xpress を使用したい場合など、ライセンスを Dongle に入れて持ち運べるため、場所を選ばず Xpress をご使用いただけます。

### 5.2 Static ライセンス Dongle 使用設定する方法

前の章で見てきたインストール設定と同様に、Xpress セットアップ・アプリケーション「xpX\_0\_win\_xXX\_XX\_setup」が必要です。

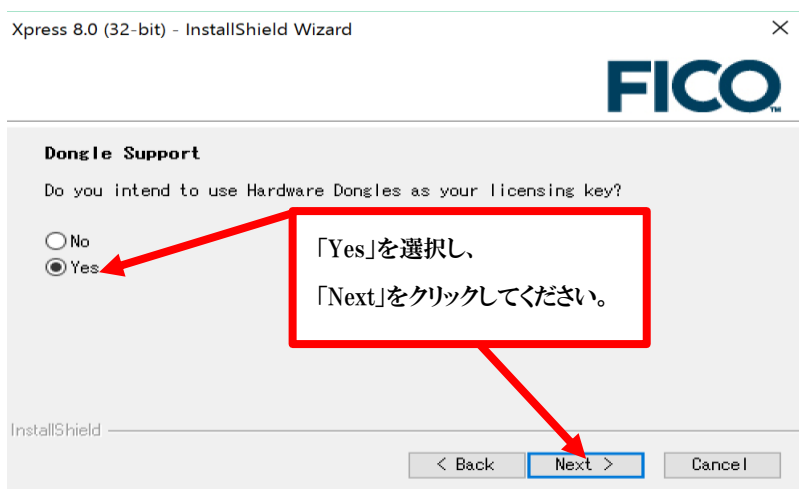
お使いの PC に対応したソフトウェアをお使いください。

ここでは Windows 32bit 版を使用した場合の画面を掲載しております。お使いの OS により表示される画面が異なる場合がございます。予めご了承頂きますようお願い申し上げます。

P5～P9 までの設定方法は同じです。左記のページを参照ください。



- ① 設定を進めていくと、下記の画面が表示されます。「Yes」をクリックしたのち、「Next」をクリックしてください。



この設定以降の手順は、P10 から 参照ください。

### 5.3 HASP dongle device driver のインストール

Windows 環境に Xpress をインストールすると、自動的に最適なデバイス・ドライバがインストールされます。正常にドライバがインストールされた場合、インストールを完了させるために、PC の再起動を行ってください。

### 5.4 インストール設定後、PC が dongle ライセンスを識別しない場合

dongle ライセンスを使用する場合、HASP dongle device driver が必要です。通常、dongle 使用に「Yes」を選択した場合、自動的にインストールされますが、稀に正常にインストールされない場合があります。

解決するために以下の手順を行ってください。

- ① ライセンス設定に dongle ライセンスを使用する場合、Xpress フォルダの the tools / dongle / hasp directory に dongle ドライバが格納されています。

dongle・ドライバの手動インストール方法: tools ¥ dongle ディレクトリにあるソフトウェアを使用します。ドライバをインストールするために、tools > > dongle > > sentinelhasp フォルダに入り、-i (フラグ) で haspdinst.exe プログラムを実行してください。

例: haspdinst .i

## 6. Floating ライセンスの設定と申請方法 (Server 側の設定)

MSI Xpress 事業部にライセンス申請を行う際に、Xpress ソフトウェアを導入するマシンの Host-ID が必要となります。Host-ID をご確認頂くには、Xpress ソフトウェアのインストールが必要です。

\*1 Host-ID とは

PC 一台、一台を識別するために割り振られた 12 桁の番号を指します。

Xpress で提供している専用の Host-ID 取り出しツールを使用してください。

注:PC の製造番号、ネットワーク番号などとは異なります。Host-ID のご確認は必ず、xphostid.exe アプリケーションをご利用ください。その他の番号では正しいライセンスファイルを作成、ご提供することができません。

### 6. 1 Floating License とは

トークンベースで運用できる複数ユーザ(N 人)用ライセンスです。

○ Server とは:ライセンスマネージャを実行し、別の PC からのライセンスリクエストを管理する PC に設定します。ユーザのネットワーク上にある PC をライセンス サーバとして設定します。この PC は Client マシンと同じ IP サブネット上に所属し、TCP ポート 2700 の受信接続を許可してください。(別のポート設定について:P18 )

○ Client とは:Xpress を実行し、ライセンスは別の PC にリクエストする PC に設定します。Server にネットワークアクセスできる PC として同時に N 台まで Xpress を実行できます。ターミナルサービスおよび WEB アプリケーションサービスセッションを経由し、リモートで利用可能です。

### 6. 2 Floating ライセンス Host-ID 取り出しツールを取得するには

Xpress ソフトウェアに Host-ID 取り出しツール「xphostid.exe」が含まれています。Xpress ソフトウェアは「xp8.0\_win32\_setup」、「xp8.0\_win64\_setup」、「xp8.0\_linux64\_setup」または「xp8.0\_linux32\_setup」などお客様の OS に対応した Xpress ソフトウェアを導入ください。

注:32bit 版の PC をお使いの場合は 32bit 用のアプリケーションをインストールください。64bit/84bit 版の PC の場合は、64bit/84bit 用のアプリケーションをインストールください。

\*1 弊社 WEB サイト>ダウンロードページには Windows 用 Xpress ソフトウェアのみを掲載しています。Linux・Unix をご利用のお客様は Xpress 事業部までお問合せください。

お問合せ先:xpress@msi-jp.com(担当:芝原)

1.3 Static( DeskTop)ライセンスの申請: Xpress ソフトウェアをインストールする

当ガイドでは、Windows OS を使用した際の画面表示で設定手順を掲載しております。

お客様のお使いの OS が異なる場合、表示される画面が異なる場合がございます。

改めご了承頂きたいようお願い申し上げます。

\* Windows に Xpress をインストールする際に、Installshield インストーラを使用します。

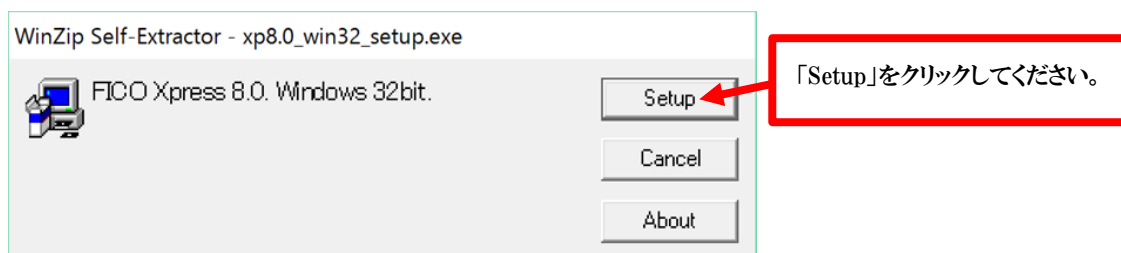
Installshield インストーラは、Xpress パッケージ(zip 形式)に含まれ、自動的に実行します。

### 6.3 ダウンロード(または USB データなどで取得した)した zip ファイルを展開する

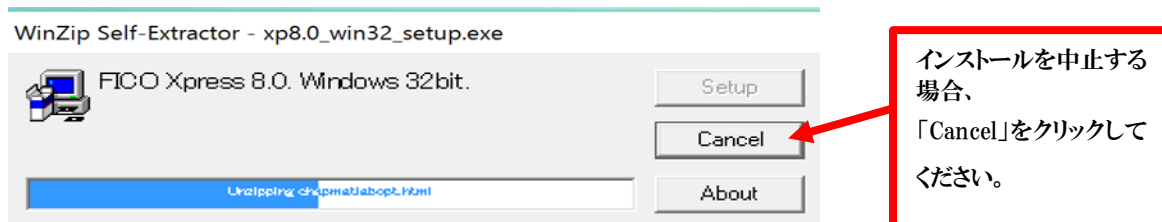
① 取得した Xpress ソフトウェアは、デフォルト設定でダウンロードフォルダに保存されています。  
(ユーザー指定保存場所に保存した場合はそこを参照ください)

ダウンロードフォルダへ入り、「xp8.0\_●●\_setup」アプリケーションにカーソルを合わせ、ダブルクリックし、ファイルを展開してください。下記の画面が表示されます。

「setup」をクリックしてください。\*セットアップを中断する場合、「Cancel」を選択してください。



② 「Setup」をクリックすると、下記のように WinZip が展開 >> インストール準備を開始します。

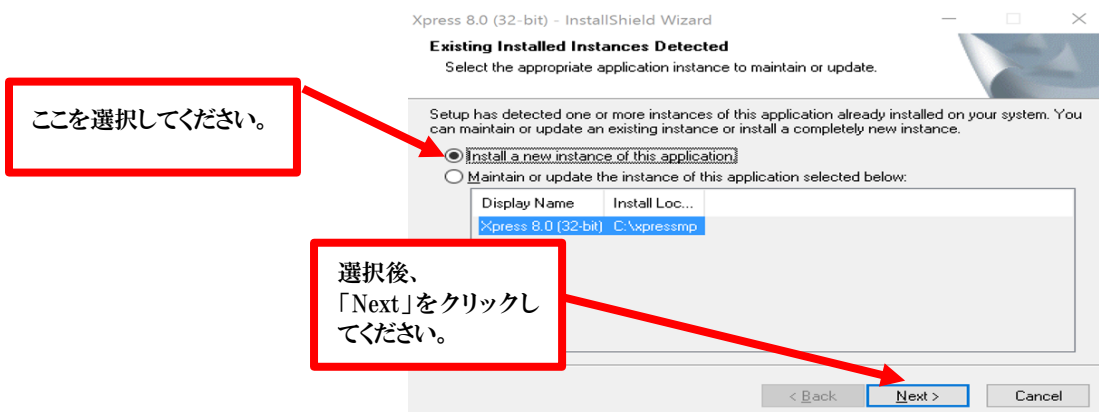


③ 次に下記の画面が表示されます。ここでは新しいアプリケーションとしてソフトウェアインストールを行います。\*バッチファイルの適用に関する設定方法は P44 を参照ください。

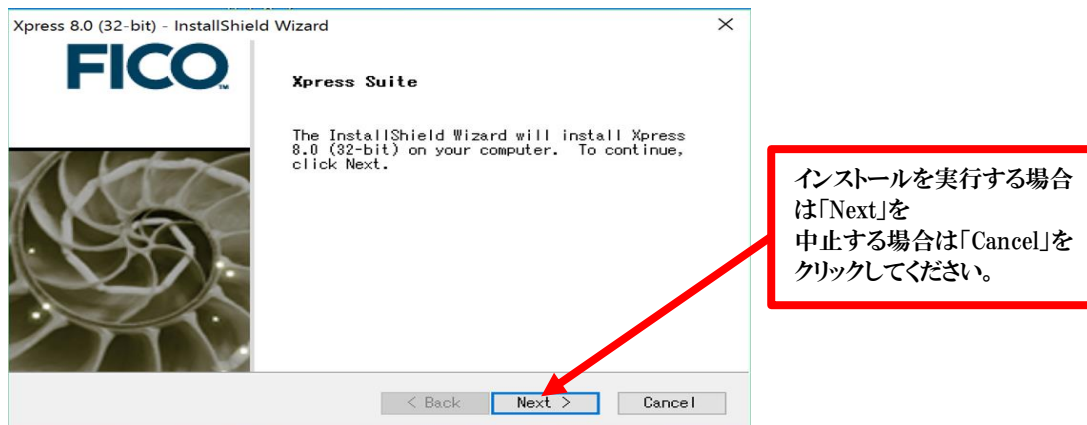
「Install a new instance of this application」を選択してください。

- デフォルト設定のインストール先は「Cドライブ」です。
- 生成されるファイル名:「xprssmp」です。

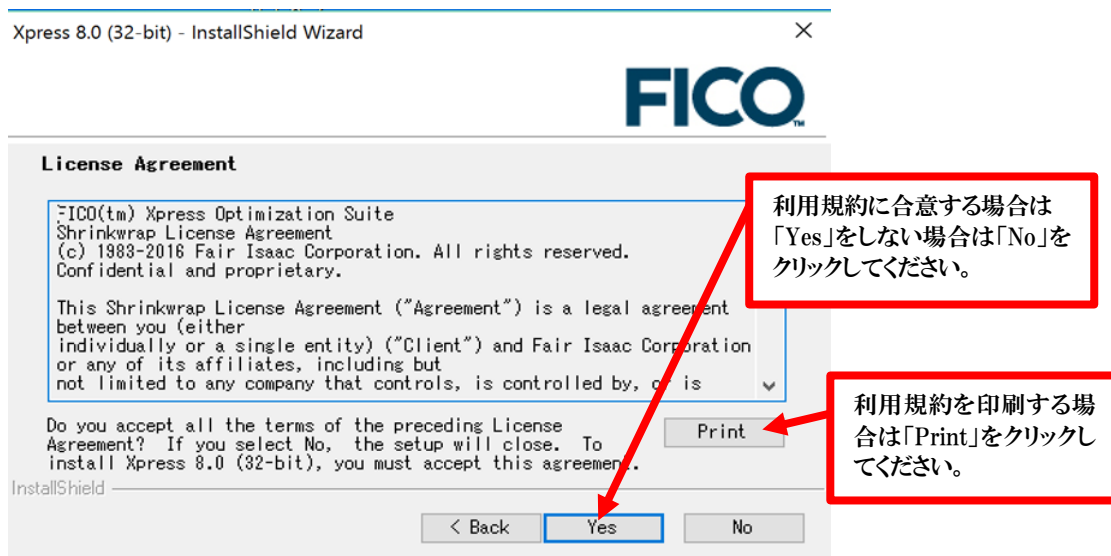
「Next」をクリックし、先へ進みます。



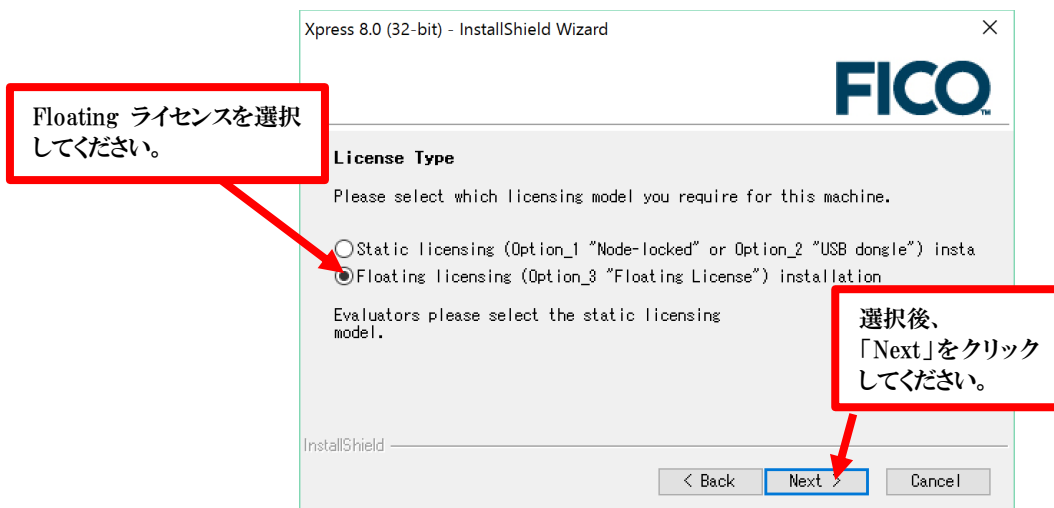
- ④ セットアップに使用する installshield の準備が完了しました。  
インストールを続行する場合は、「Next」をクリックしてください。中断する場合は「Cancel」を選択してください。



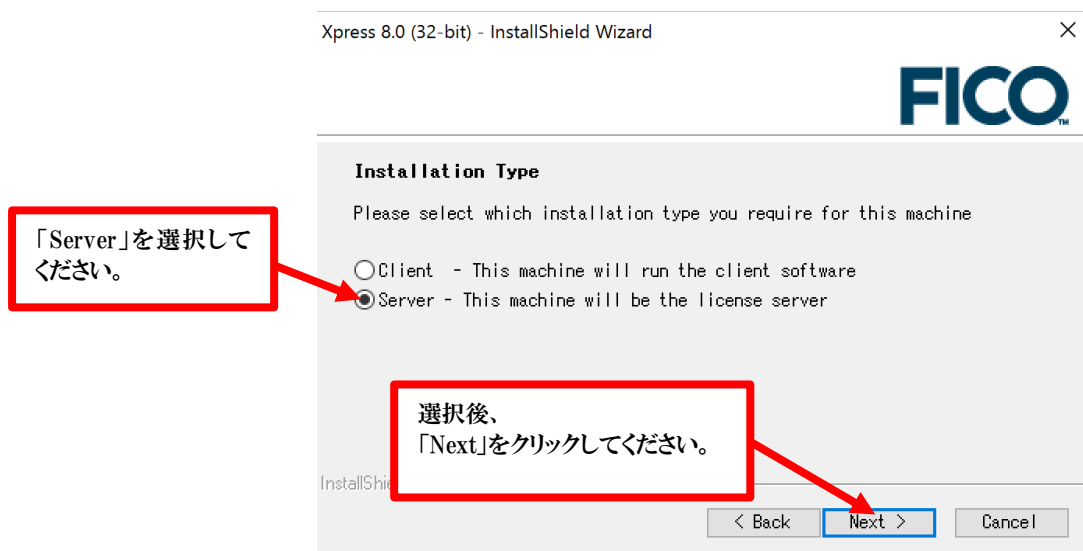
- ⑤ Xpress ライセンス利用規約が表示されます。大変重要ですので、よくお読みになった上で利用規約に同意してください。ライセンス利用規約を印刷する場合、「Print」をクリックします。利用規約に同意する場合、「Yes」をクリックし、同意しない場合「No」をクリックしてインストーラの実行を終了してください。



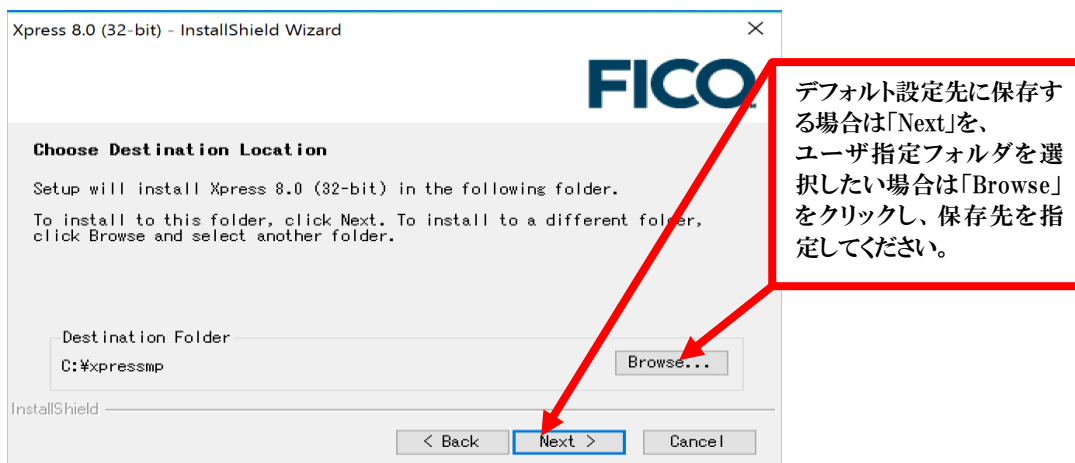
- ⑥次にお使いになるライセンスの種類を選択します。  
ここでは、**Floating** ライセンスを設定していきます。「Floating licensing」を選択し、「Next」をクリックしてください



- ⑦ 続いて、お使いの PC を Server として設定するか、Client として設定するか選択してください。ここでは、Floating ライセンス Server 側としてセットアップを行います。Client 側の設定は P28 を参照ください。Server のチェックボックスを選択後、Next をクリックしてください。



- ⑧ Xpree のインストール先(保存先)フォルダを設定します。デフォルトの保存先は C ドライブ>>xpressmp です。ユーザ指定フォルダの設定は「Browse」をクリックし、フォルダを指定します。



⑨ ライセンスキーに dongle を使用するか選択します。

使用する場合「Yes」を、使用しない場合は「No」を選択してください。

(dongle の設定は P25 を参照ください。) この章では dongle を使用しない設定方法を掲載しています。



⑩ ライセンスマネージャを Windows サービスとして設定するか選択します。

設定した場合、Windows 起動時に自動的にライセンスマネージャが起動します。ライセンスマネージャの起動方法として推奨しています。また、runlmgr.bat ファイルを実行し、ライセンスマネージャを標準プログラムとして設定することもできます。

#### ライセンス・マネージャの設定

1. Floating ライセンスを使用するために、ライセンス・サーバーとなるネットワーク上のマシンを指定してください。指定するマシンはクライアント・マシンと同じ IP サブネット上かつ、TCP Port2700(ま

たはセクション:その他の設定でユーザ指定した設定)の受信許可を設定する必要があります。

2. サーバマシン上で Xpress インストーラを実行させます。このインストーラはインストール設定中、ウィザードで起動しています。

○Windows NT/2000 およびこれ以降の場合:Windows サービスとしてライセンス・マネージャをインストール設定するか選択してください。Windows サービスとしてライセンス・マネージャをインストールするには、使用者は権限(Administrator としての権限)を持っている必要があります。権限がない場合、「権限を持たない」を選択してください。

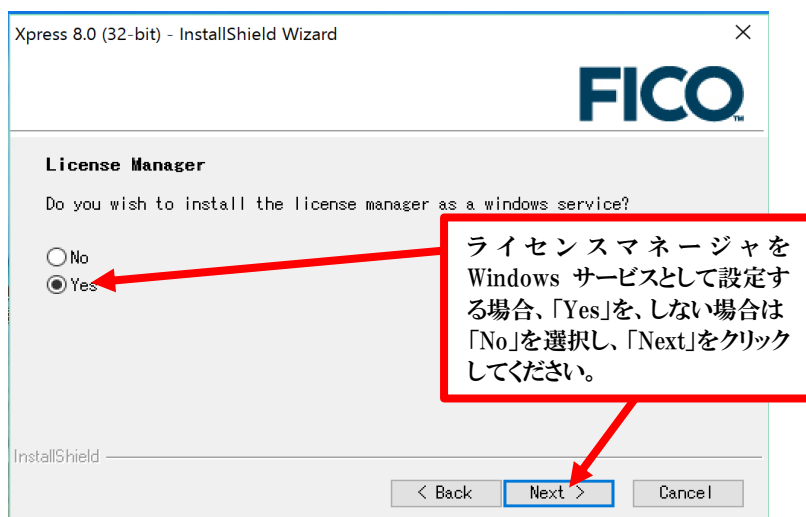
○Windows では、ライセンス・マネージャを起動させるためのスタート・メニューのショートカットを使用できます。Windows サービスとしてライセンス・マネージャをインストール設定した場合は、Services control panel applet を使用して起動/停止を操作することができます。

下記のコマンドを使用して Unix shell または Windows コマンドプロンプト(または DOS)からライセンス・マネージャを起動することができます。

・コマンド `runlmgr start`: スタンドアローン・ライセンスマネージャや Unix ライセンスマネージャの場合)

・コマンド `runlmgr starts`: Windows サービス上のライセンスマネージャの場合)

ライセンスマネージャは手動で停止操作またはコンピュータを再起動するまで起動状態が継続します。起動状態中の場合、Xpress を再度使用する前に再起動を行ってください。

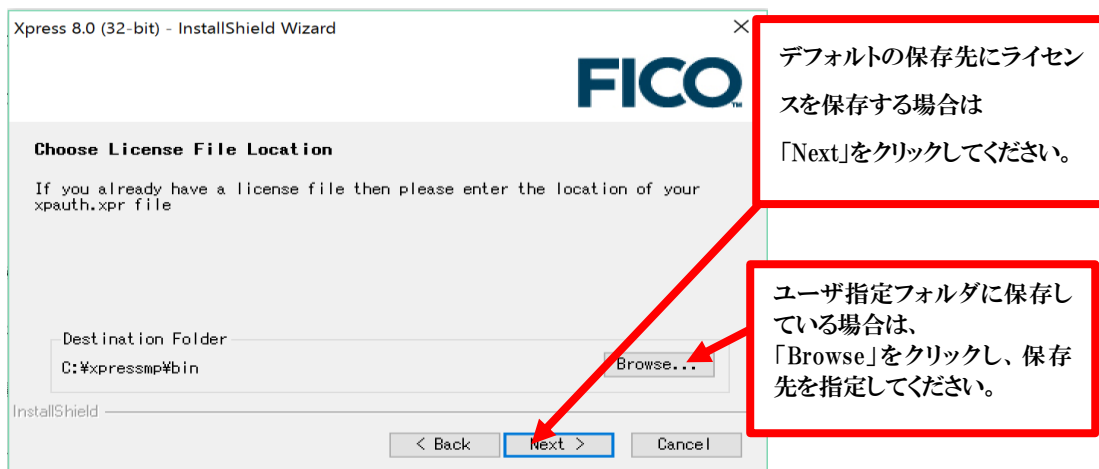


⑪ 「Xpress ライセンスファイル `xpauth.xpr` を保存したフォルダを選択してください。」

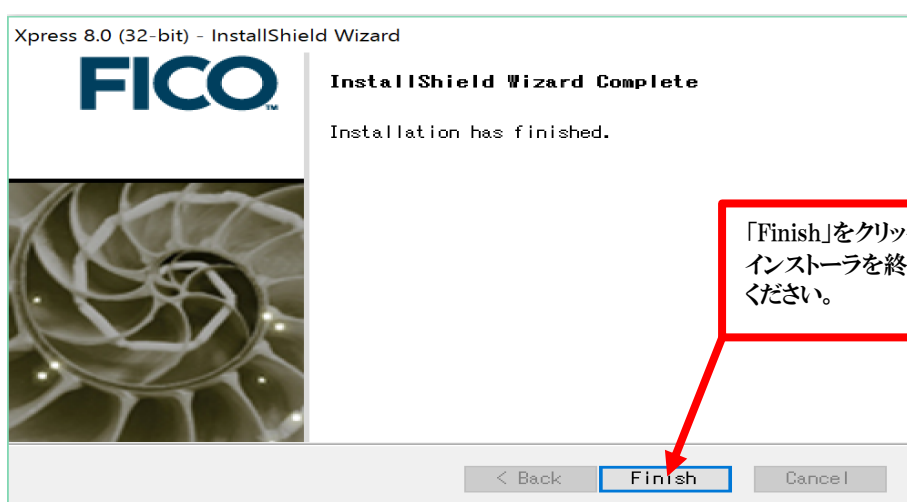
と表示されます。正式なライセンスの申請は Xpress インストール後に行います。

Xpress ライセンスファイルを取得していない場合、一時的なプレースライセンスファイルが生成されます。このプレースライセンスの中身は「空」です。正式なライセンスファイルを取得後、置換してください。ここではライセンスの保存先はデフォルト設定を使用します。デフォルトの保存先は C ドライ

ブ>>xpressmp>>bin です。ユーザ指定フォルダに保存したい場合、「Browse」をクリックし、フォルダを選択します。



⑫ インストールが完了しました。「Finish」をクリックし、Installshield を終了させてください。



#### 6.4 Host-IDを確認し、ライセンス申請を行う

① Xpress のインストールが完了後、ライセンスを取得するために Host-ID を確認してください。Xpress ソフトウェアに Host-ID 取り出しツール「xphostid.exe」が含まれています。Host-ID の確認方法は第2章 P を参照ください。

#### 6.5 Floating ライセンス Server 側 ドングルライセンスを使用する場合

Xpress のインストール手順は第6章の⑧まで同様です。

P19～P22 を参照し、⑧まで設定を進めてください。

Windows 環境でドングルライセンスを使用することができます。(Host ID や PC のイーサ



ネットアドレスというよりも、ドングルでロックされています。)

ライセンスファイルが必要です:PC のホスト ID、またはイーサネットアドレスの代わりに、4桁のドングル番号が含まれています。

ドングルは、ライセンスファイルはロックしている独自の4桁のドングル番号を提供するためにのみ使用されます。ライセンスはドングルが現在、装着されているPC上で実行した場合、有効です。ライセンスが Static または Floating か、Xpress で認可されたリリースであるかにかかわらず、認可された Xpress 機能を含め、全ライセンス情報がライセンスファイルに含まれています。

インストール設定の段階で、ライセンスキーに Dongle(ドングル)を使用するかどうか指定します。(ドングルの形状は、USB メモリースティックに類似しています。)

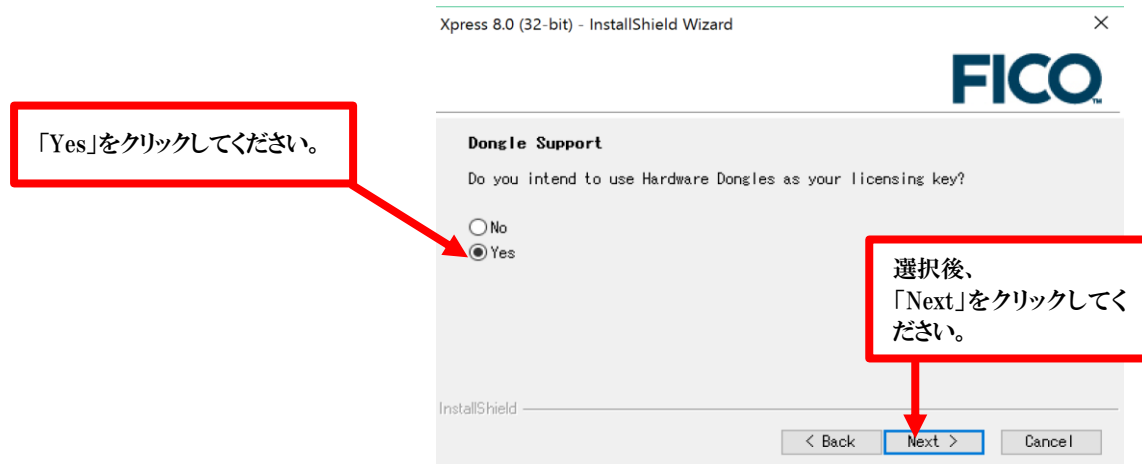
ドングルは、複数のマシンで Xpress を使用する場合、同時に1台のマシン上で Xpress の実行が可能です。このオプションは、特定のマシンにライセンスを固定するのではなく、特定のライセンスをドングルに固定したい場合、大変便利です。

例:職場のPCにライセンスを固定するのではなく、自宅のPCでも Xpress を使用したい場合など、ライセンスをドングルに入れて持ち運べるため、場所を選ばず Xpress をご使用いただけます。

⑨ ライセンスキーにドングルを使用するか選択します。

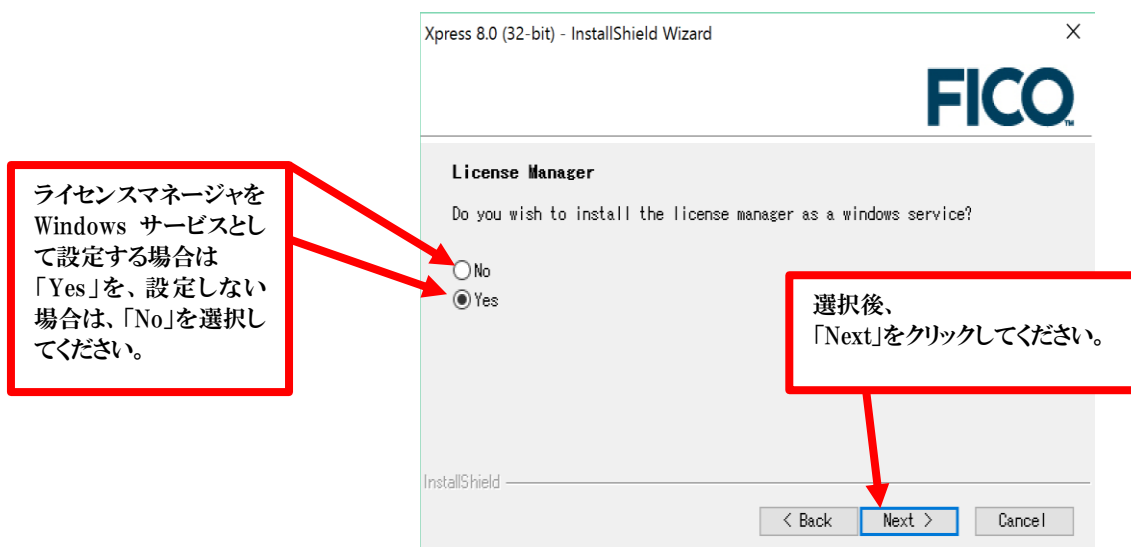
使用する場合「Yes」を、使用しない場合は「No」を選択してください。

この章ではドングルを使用する設定を行います。「Yes」を選択し、「Next」をクリックしてください。



⑩ ライセンスマネージャを Windows サービスとして設定するか選択します。

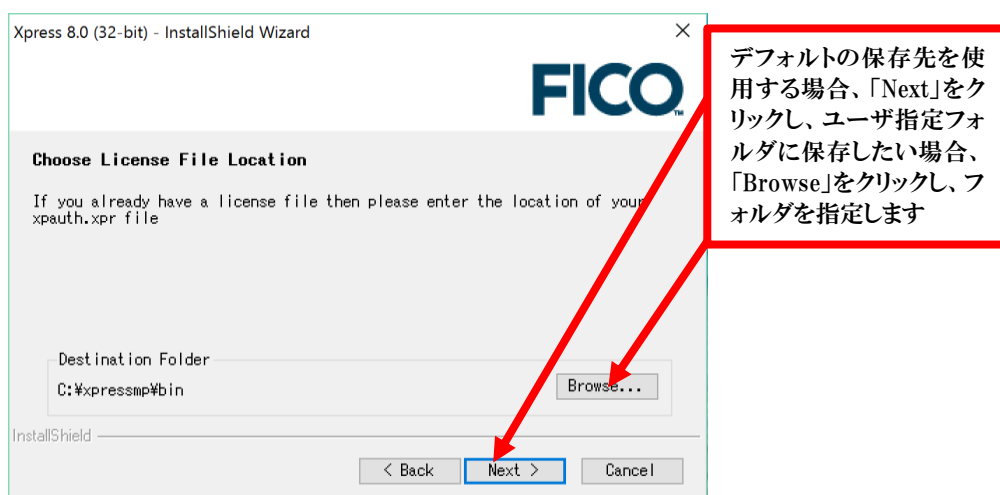
設定した場合、Windows 起動時に自動的にライセンスマネージャが起動します。ライセンスマネージャの起動方法として推奨しています。また、runlmgr.bat ファイルを実行し、ライセンスマネージャを標準プログラムとして設定することもできます。



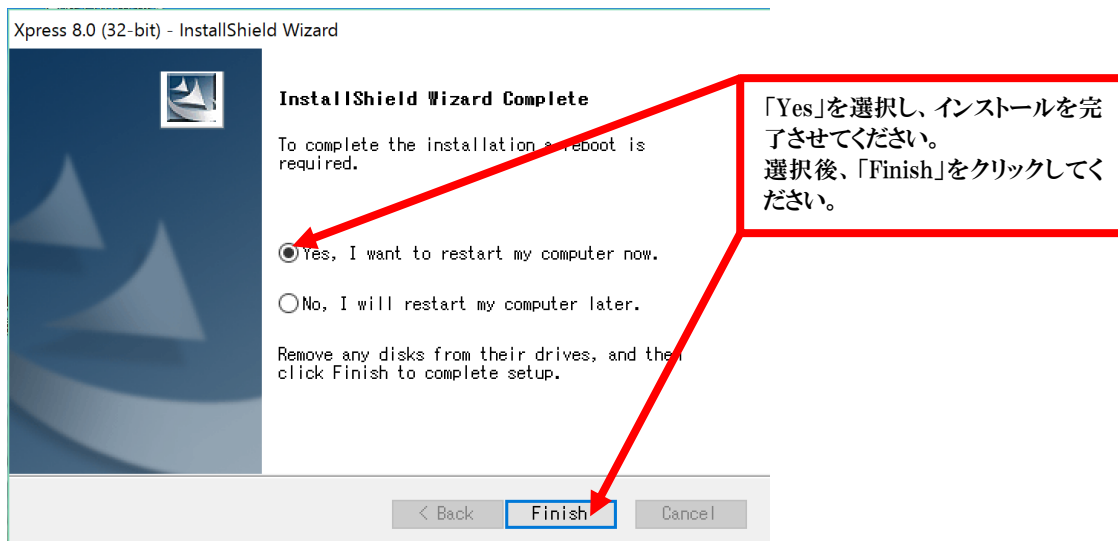
⑩ 「Xpress ライセンスファイル xpauth.xpr を保存したフォルダを選択してください。」

と表示されます。正式なライセンスの申請は Xpress インストール後に行います。

Xpress ライセンスファイルを取得していない場合、一時的なプレースライセンスファイルが生成され、このライセンスの中身は「空」です。正式なライセンスファイルを取得後、置換してください。ここではライセンスの保存先はデフォルト設定を使用します。デフォルトの保存先は C ドライブ >>xpssmp>>bin です。ユーザ指定フォルダに保存したい場合、「Browse」をクリックし、フォルダを指定します。



⑫ インストールを完了させるために、PCの再起動を行ってください。



## 7 Floating ライセンス Client 側の設定方法

Floating ライセンスを使用するにはクライアント・マシンを設定する必要があります。

最初に、Xpress をクライアント・マシン上にインストールしてください。

ここでは、Client マシン用に Xpress をインストールします。

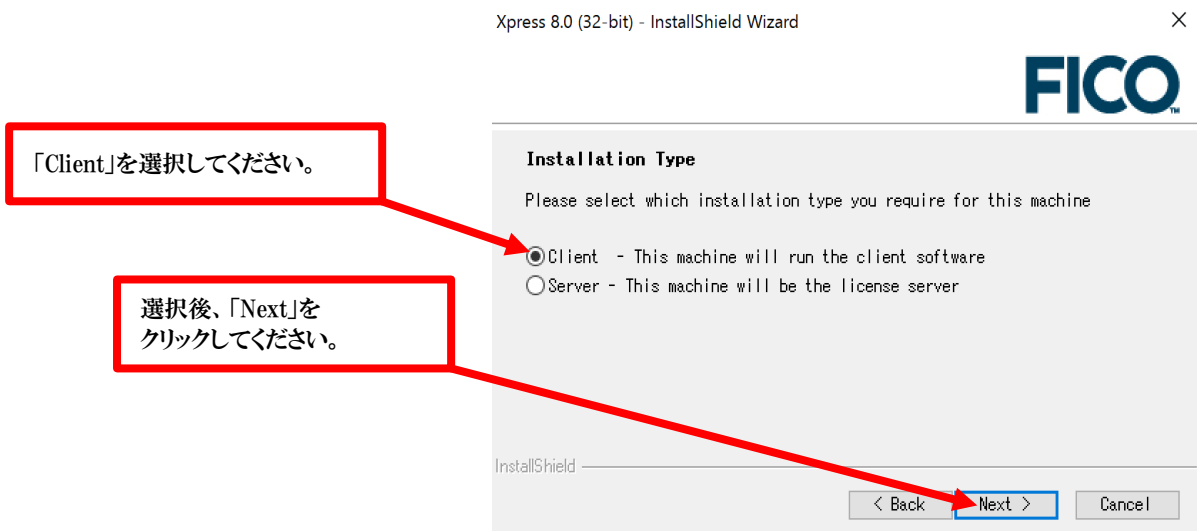
第6章⑥までインストール設定方法は同じです。P19～P22 を参照ください。

注：Floating ライセンスは、ライセンス・サーバーと呼ばれる指定マシンでライセンスマネージャを実行する必要があります。任意の物理的 Xpress、すなわち続行前に、権限に対するネットワーク上のライセンス・サーバーと接続した任意のマシン上で実行させてください。

この設定は Client マシンとして Xpress を実行するマシンの設定方法です。

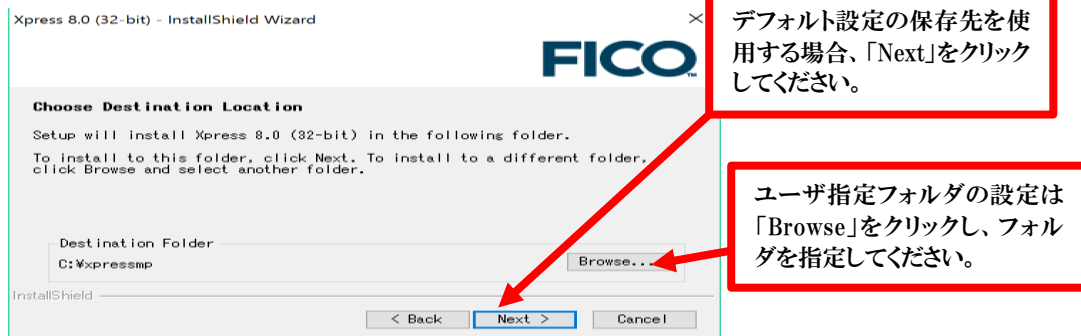
⑦ここでは、Client マシン用に Xpress をインストールします。

「Client」を選択し、「Next」をクリックします。



⑧ Xpress のインストール先(保存先)フォルダを設定します。デフォルトの保存先は

Cドライブ>>xpressmp です。ユーザ指定フォルダの設定は「Browse」をクリックし、フォルダを指定します。



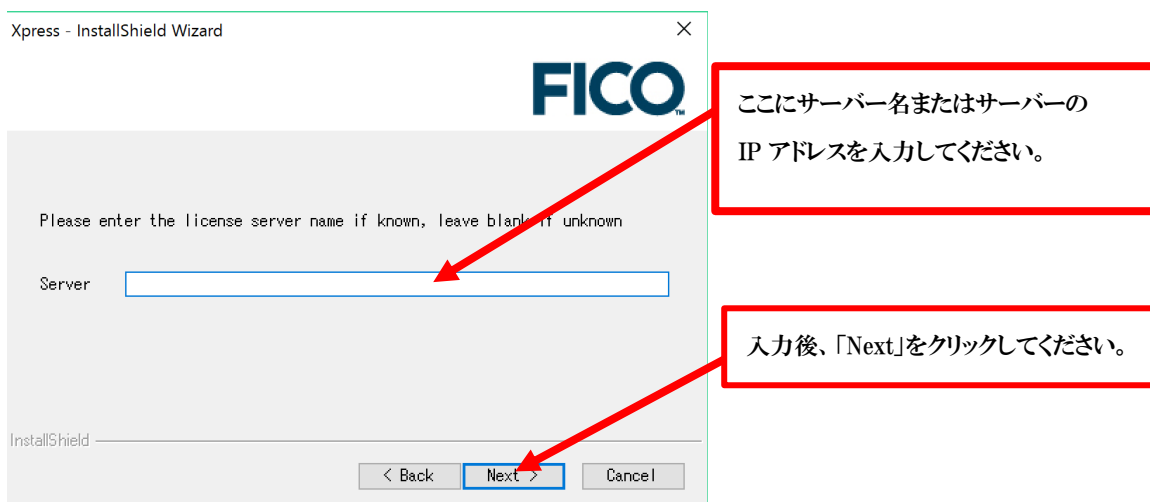
⑨ 「ライセンスサーバー名」または「サーバーの IP アドレス」を入力します。

サーバー名が既知の場合、任意のテキストファイルエディタでダブル・クォーテーション・マークの間にサーバー名を入力してください。

◎ライセンスファイルにサーバー名を入力設定する

サーバー側ライセンスファイルを開き、(保存先<installation directory>/bin)

例:server="ここにサーバー名を入力"とライセンスファイルに入力設定を行ってください。

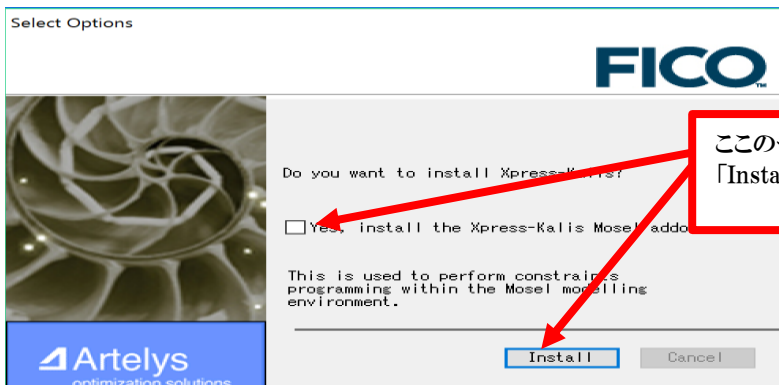


⑩ 「ライセンスサーバ名」または「IP アドレス」を入力します。サーバ名が不明な場合、システム管理者に FICO Xpress License server 名を確認ください。

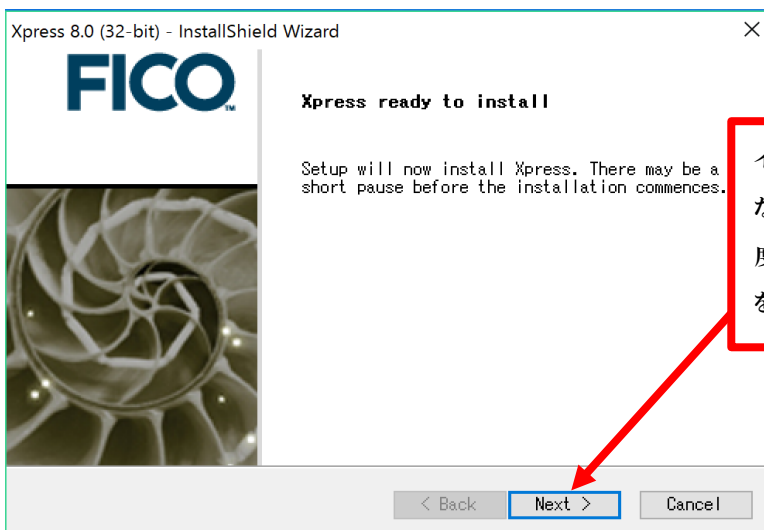
**注:**確認が取れず、サーバ名が不明な場合、入力枠に何も入れずに、「Next」をクリックして、そのままインストールを続行してください。サーバ名フィールドが空白状態で生成されます。サーバ名が分かり次第、ライセンスファイル(ファイル名:xpauth.xpr)を開きテキストエディタに記載されている use\_server server="" 行の""の間にサーバ名、または IP アドレスを入力して設定を行ってください。

**注:**インストール中に、Server マシンのホスト名を入力する画面が出てきます。必要に応じて、ドメインの資格情報とともにマシンのホスト名を入力してください。例:uranos.ficdash.co.uk

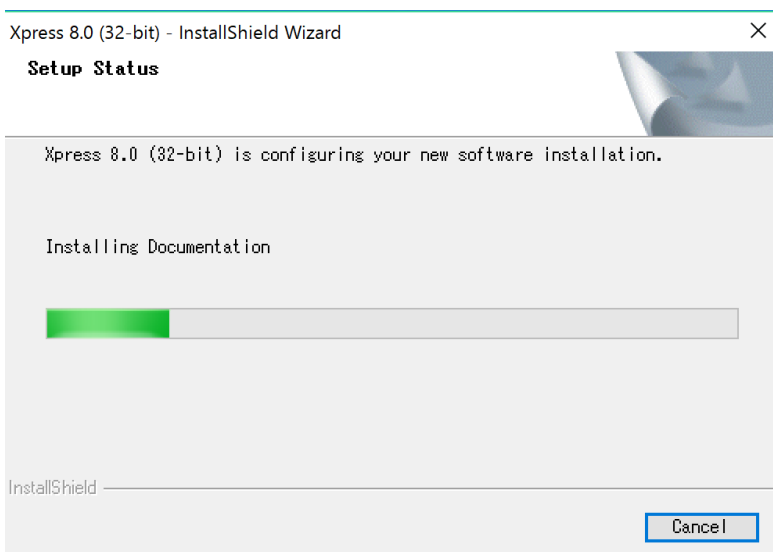
⑪ Xpress-Kalis をインストールするか選択します。当ガイドでは設定せずに、次へ進みます。チェックボックスの選択を外し、「Install」をクリックします。



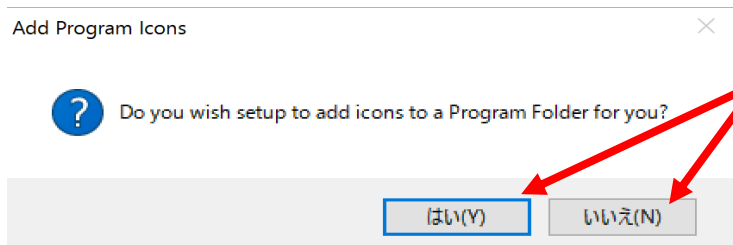
⑫ Xpress インストールの準備が完了しました。インストールを開始する場合、「Next」をクリックします。



⑬ インストールが完了するまで、しばらくお待ちください。

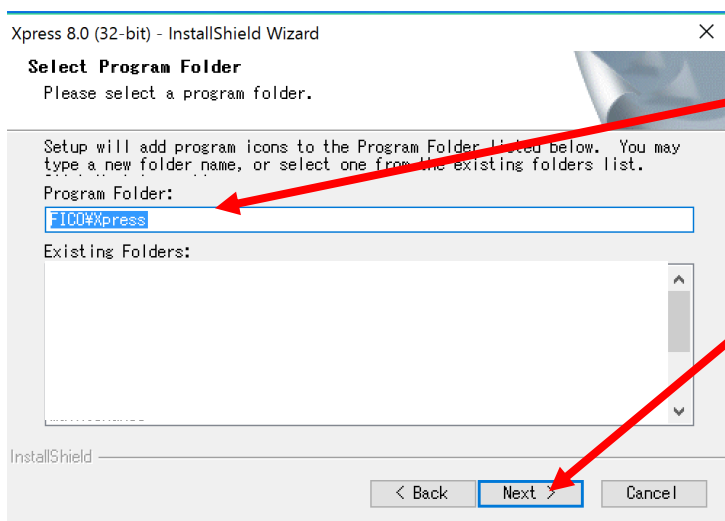


- ⑭ Xpress アプリケーションを Windows スタートメニューのアイコンに追加する場合、「はい(Y)」をクリックします。当ガイドではアイコンの設定を行う手順を掲載しています。



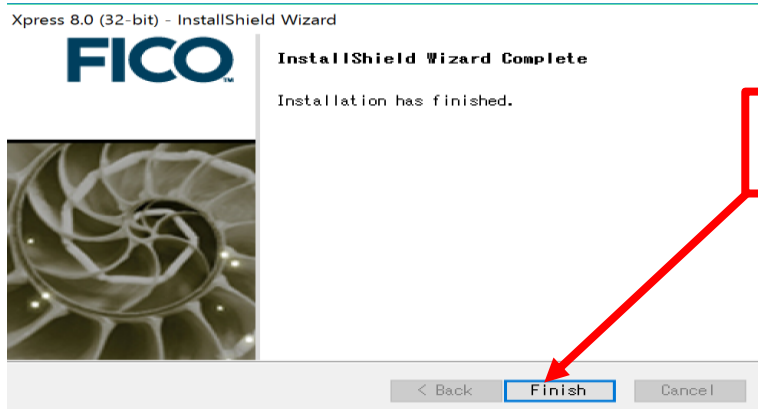
Xpress をスタートメニューに追加する場合は「はい」を追加しない場合は「いいえ」をクリックしてください。

- ⑮ Xpress アプリケーション(プログラム)の保存先フォルダを設定します。(デフォルトの保存先は FICO¥Xpress) 選択後、「Next」をクリックします。



保存先フォルダを選択してください。デフォルトの保存先を使用する場合は、このまま「Next」を、その他既存フォルダを使用する場合はリストから選択してください。

- ⑯ インストールを完了させるために、「Finish」をクリックします。



「Finish」をクリックし、インストールを完了してください。

注: Client マシンでライセンスマネージャを実行する必要はありません。

注:クライアントマシンを実行させる前に、サーバマシンでライセンスマネージャを起動させます。



## 8. 1つのPCにクライアント設定とサーバ設定を行う場合 (Floating License用のオプション設定)

注:このセクションはオプション3(Floating ライセンス)の設定方法です。

•サーバマシンで Xpress ソフトウェアを実行するには

Client と Server を別のフォルダにインストールしてください。まず初めに、Client をインストールし、続いて Server をインストールします。インストールパスの入力が必要な場合は、異なるパスを入力してください。

◎サーバマシンで Xpress ソフトウェアを実行する場合:Server と Client 設定を別々のフォルダにインストールします。Xpress ソフトウェアを Client を最初にインストールし、次に Server をインストールします。

•同一フォルダに Client と Server をインストールする場合:初めに Client をインストールし、続いて Server をインストールします。この設定を行うために、Client と Server は同じライセンスファイルを使用するためローカルマシンで Client を示すためにライセンスの use\_server 行を編集しなければならない場合もあります。

## 9. ライセンスマネージャを停止させる

◎メンテナンスやアップグレードの際に、オフラインでライセンスサーバ処理を行いたい場合:Windows:スタートメニューにある Xpress エリアにあるリンクを使用してライセンスサーバの停止(や開始)操作が可能です。

◎スタートメニューに設定を行っていない場合、Windows コマンドプロンプト(または DOC box)から runlmgr スクリプトマネージャを使用してライセンスサーバの操作が可能です。

```
runlmgr stops
```

## 10. TCP ポート追加設定

特定の TCP ポートを使用する場合、ライセンスマネージャに追加する TCP ポートを設定してください。

◎サーバマシンで別のサービスを起動している場合(すなわち、Xpress ライセンスマネージャで拒否されている接続)や、このサーバへの接続を許可するためにファイアーウォールのルールを修正したい場合などの設定は下記の通りです。

1. サーバ上のライセンスファイルを編集し、ポート番号を server 行に追加します。

例:server port="12840"

2. クライアント上のライセンスファイルを編集し、下記のポートディレクティブを

use\_server 行に追加します。

例:use\_server server="our\_server\_machine" port="12840"

3. 再度、ライセンスファイルを読み込むため、ライセンスサーバのアプリケーションを再起動します。以上で操作は完了です。

## 11. Floating ライセンスのログイン方法

注:このセクションはオプション3 (Floating ライセンス) の設定方法です。

デフォルトのライセンスサーバのプロセスにより、サーバーマシンに一時的フォルダに xprl\_server.log と呼ばれるログファイルが生成されます。

・Windows ではデフォルト設定でサーバ・ログファイルは一時的フォルダに生成されます。

通常、生成先は、サーバの実行に使用するユーザアカウントのプロファイル内 /Temp に生成されています。場合によって、C:/Windows/Temp に生成されていることがあります。プロファイル内に存在しない場合、併せてご確認ください。

## 12. ドングルライセンス番号確認方法

◎ ドングル番号を表示する

Xpress HostID ツールを使用してドングル番号を取得することができます。

PC にドングルを装着し、dongle device driver をインストールしたのち、実行してください。

### 12.1 HASP dongle device driver のインストール

Windows 環境に Xpress をインストールすると、自動的に最適なデバイス・ドライバがインストールされます。正常にドライバがインストールされた場合、管理者権限を持ち、インストールを完了させるために、PC の再起動を行ってください。

### 12.2 ドングル・ドライバの手動インストール方法

tools¥dongle ディレクトリにあるソフトウェアを使用します。ドライバをインストールするために、tools¥dongle¥sentinelhasp フォルダに入り、下記のコマンドで haspdinst.exe プログラムを実行してください。

例:haspdinst -i

### 12.3 ライセンスの状況を確認する

注:このセクションはオプション 3 (Floating ライセンス) に該当します。

サーバーライセンスを使用する場合、すべての現行ライセンス状況を素早く確認することが可能で

す。例えばだれがライセンスの使用を希望しているかなどを確認することが可能です。確認するライセンス情報を集約するためにライセンス内にあるコマンド行ツール xplicstat を使用します。(どのトークンがまだ確認可能かも含め)このツールは Floating ライセンスのみに対し、ライセンスが使用されていた時間とライセンスを使用していたマシンの IP アドレスを出力します。クライアント側のファイル xpauth.xpr と1行以上の use\_server 行と共に xplicstat コマンドを使用してください。

Windows を使用する場合、このコマンドは実行形式と同じフォルダ内にあります。Unix の場合、このコマンドは XPRESS 環境変数で使用します。-xpress コマンドライン行を使用して指定格納場所に変更することも可能です。

```
xplicstat -xpress C:\xpressmp\bin\xpauth.xpr
```

## 13. Linux OS に Xpress をインストールする

① はじめに、Linux/Unix 向け Xpress8.0 アプリケーションを MSI Xpress 事業部からお取り寄せください。

お問合せ先:xpress@msi-jp.com まで、Xpress8.0 Linux または Unix アプリケーションご希望の旨をお手数お掛け致しますがご連絡ください。また Xpress を導入する PC 環境も併せて明記ください。

例:Linux 64bit など

折り返し、Linux または Unix 専用アプリケーションについてのお知らせ致します。

② Xpress 事業部より Linux または Unix 向け Xpress8.0 セットアップアプリケーションが届きましたら、インストールを行ってください。

### 13.1. Linux/Unix に Xpress をインストールし、ライセンスファイルの申請を行う

ライセンスファイルの申請を行う際に、Xpress を使用するマシンの Host-ID が必要です。

Host-ID とは

PC 一台、一台を識別するために割り振られた 12 桁の番号を指します。

Xpress で提供している専用の Host-ID 取り出しツールを使用してください。

注:PC の製造番号、ネットワーク番号とは異なります。Host-ID のご確認は必ず、xphostid.exe アプリケーションをご利用ください。その他の番号では正しいライセンスファイルを作成することができません。

### 13.2. Host-ID 取り出しツールを取得するには

① Xpress 実行アプリケーション「xp8.0\_linux64\_setup」または「xp8.0\_linux32\_setup」アプリケーションに Host-ID ツール「xphostid.exe」が含まれています。

注：32bit 版の PC をお使いの場合は 32bit 用のアプリケーションをインストールください。  
64bit/84bit 版の PC の場合は、64bit/84bit 用のアプリケーションをインストールください。

② 事前に、Xpress 事業部から届いた Xpress セットアップアプリケーションを実行してください。  
インストール手順は、WindowsOS と同様です。WindowsOS の設定手順を参考ください。

③ デフォルトで C ドライブに「xpressmp」ファイルが生成されます。

④ xpressmp ファイル内<installationdir>>>bin フォルダ内に「xphostid.exe」が格納されています。  
このアプリケーションが Host-ID 取り出しツールです。

⑤ 上記の「xphostid.exe」アプリケーションをクリックし、起動させると、別枠にウインドウが開き  
お使いの PC 情報が表示されます。

⑥ 別枠ウインドウに表示された PC 情報を MSI Xpress 事業部 芝原<noriko.shibahara@msi-  
jp.com>までお送りください。

⑦折り返し、Xpress ライセンスをメール添付にお送りいたします。

### 13.3 ライセンスを設定する(Linux OS)

① 12.2 で、セットアップアプリケーションを実行頂いた際に、自動で C ドライブ(ユーザ指定フォルダにインストールを行った場合を除く)>> xpressmp ファイル内<installationdir>>>bin フォルダ内に一時的なライセンスファイルが生成されます。

② この一時的なライセンスファイルを Xpress 事業部から送付された正式なライセンスファイルで上書きします。

③メール添付されたライセンスファイルをデスクトップにコピーし、  
C ドライブ(ユーザ指定フォルダにインストールを行った場合を除く)>> xpressmp ファイル内  
<installationdir>>>bin フォルダ内にデスクトップにコピーした正式なライセンスファイルをドラック・ドロップしてください。その際に別枠ウインドウが開き、同名ファイルが存在します。上書きしますか?と表示されます。「上書きする」を選択し、保存してください。

### 13.4 Linux OS でライセンスに dongle を使用する場合

dongle とは

dongle は、ライセンスファイルはロックしている独自の 4 桁の dongle 番号を提供する

ためにのみ使用されます。ライセンスは dongle が現在、装着されている PC 上で実行した場合、有効です。ライセンスが Static または Floating か、Xpress で認可されたリリースであるかにかかわらず、認可された Xpress 機能を含め、全ライセンス情報がライセンスファイルに含まれています。

インストール設定の段階で、ライセンスキーに Dongle( dongle )を使用するかどうか指定します。( dongle の形状は、USB メモリースティックに類似しています。)

dongle は、複数のマシンで Xpress を使用する場合、同時に1台のマシン上で Xpress の実行が可能です。このオプションは、特定のマシンにライセンスを固定するのではなく、特定のライセンスを dongle に固定したい場合、大変便利です。

例: 職場の PC にライセンスを固定するのではなく、自宅の PC でも Xpress を使用したい場合など、ライセンスを dongle に入れて持ち運べるため、場所を選ばず Xpress をご使用いただけます。

注: Windows の場合は、Xpress setup アプリケーションをインストール頂くと、自動的に dongle ・デバイスドライバもパッケージの一つとしてインストールされる仕組みとなっておりますが、Linux 上ではこの dongle ・デバイス・ドライバがパッケージに含まれていないため手動でインストール頂く必要がございます。(インストール頂かないと、Xpress が dongle を認識せず、ライセンスエラーになります。)

HASP dongle デバイスドライバーを手動でインストールください。

当件の詳細は、Xpress 事業部までお問合せください。

## 14. ライセンス設定に関するエラーメッセージと解決法

ここに記載したエラーメッセージは IVE、Optimizer コンソールおよび Mosel コンソールを含む実行ソフトウェアから表示されるメッセージです。Xpress ライブラリを使用している場合、エラーメッセージは XPRSgetlicerrmsg (Optimizer および BCL) または XPRMgetlicerrmsg (Mosel) 機能で取得可能です。Floating ライセンスをお使いの場合、ログファイル xprl\_server.log でもご確認頂けます。ここに記載されていないエラーメッセージが表示された場合、エラーメッセージ番号、エラーの発生状況などを MSI Xpress 事業部までご連絡ください。

1. The license file (xpauth.xpr) could not be found.

ライセンスファイルの格納先およびライセンスファイルが正しいかどうかご確認ください。Windows 環境でのライセンスファイル xpauth.xpr の正しい格納先は Xpress bin ディレクトリです。(Xpress DLLs を含むパス上のディレクトリ) Unix 環境では XPRESS 環境変数は xpauth.xpr ファイルを含むディレクトリに設定してください。XPRESS 環境変数は Windows では効力がありません。

2: There is an error in your license file...または 8: Your license file has not been signed by Xpress Support / has an incorrect signature. 11: Your license is invalid as it specifies an invalid / no expiry date.

ライセンスファイルが破損しています-Xpress 事業部から送付されたライセンスファイルを使用し、破損したライセンスファイルに上書き保存を行ってください。ライセンスファイルの置換方法を参照ください。送付されたライセンスファイルが無効となっている場合、お手数をお掛け致しますが Xpress 事業部まで破損したライセンスファイル、エラーメッセージを添えてご連絡ください。

4: The maximum number of simultaneous users has been reached.

お使いのライセンスファイルに、同時使用可能台数の上限が設定されています。現在、同時使用可能上限台数に達しているためお使いの PC では一時的に Xpress を使用することができません。Xpress のコピーのいずれかを終了させるか、ほかのユーザーが Xpress を終了するまでお待ちください。このエラーメッセージが度々表示される場合、ライセンスをアップグレードし、同時使用可能上限台数の設定を変更なすることを推奨いたします。

9: The license file only supports host ID(s) [id1,...]

お使いのライセンスは、現在 Xpress を実行しているマシンとは別の Host-ID で固定されています。(または Floating ライセンスの場合、現在お使いのマシンとは異なるサーバーマシンに固定されているライセンスファイルです。)現在、お使いのマシン用のライセンスが必要な場合、Xpress 事業部までお問合せください。

現在お使いのマシンの Host-ID で固定された正規のライセンスファイルであるにもかかわらず、この

エラーメッセージ9が表示された場合、Xpress が Host-ID を検出できていない可能性があります。イーサネットライセンスをお持ちの場合、Media Sense の状況をご確認ください。 dongle ライセンスをご使用の場合は、dongle が正確にマシンに装着されていることを確認し、最新 Xpress プリケーションのインストールを実行し、HASP dongle ドライバを手動でインストールしてください。

10: Your license expired on [date].

お使いのライセンスは使用期限が過ぎています。ライセンスのアップグレードまたは新規のライセンスファイルの申請を Xpress 事業部までお問合せください。

14: Could not connect to server...

サーバーコンピュータがネットワーク上で可視化が可能か下記のコマンドを入力し確認してください。

ping <name\_of\_license\_server>

また、ライセンス・サーバーアプリケーション、Xpserver がサーバーマシン上で現在起動しているかご確認ください。エラーに関するログファイルを確認してください。ファイアウォールを設定している場合、Xpress ライセンス・サーバーアプリケーションへの接続をブロックしていないことをご確認ください。

20: License could not be checked out on redundant servers.

このライセンスでは冗長ライセンスサーバーの定数を取得できませんでした。不十分な冗長ライセンスがアクティブの状態か、ほかの2つの冗長ライセンスサーバー上ですでに使用されています。(このエラーメッセージは冗長ライセンスを使用する場合のみに発生するエラーです。)

21: Your license only supports release [rel].

このライセンスは最新の Xpress バージョン用ではありません。最新版用ライセンスをお使いの場合、上記の手順に従い、Xpress が正しいライセンスファイルを検出できるようご確認ください。また最新版にアップグレードする場合 MSI

Xpress 事業部までご連絡ください。年間サポートにご加入頂いているお客様は無償にてアップグレード致します。

32: Not within local subnet

このライセンスは、ライセンスサーバーと同じサブネット上のマシンからライセンスサーバーと接続している場合のみ有効となります。ライセンスサーバーと異なるサブネットから接続した場合、このエラーが発生します。

89: Your license only supports platform(s) [plat1,...].

Xpress を起動しているプラットフォームをお使いのライセンスではサポートされていません。アップ

グレードが必要な場合、MSI Xpress 事業部までお問合せください。

103: Your license does not allow Xpress to be run on a Terminal Services server

ワークステーションまたはサーバーライセンスを使ったターミナル・サービスサーバー上のみで Xpress を使用頂けます。ライセンスのアップグレードが必要な場合、MSI Xpress 事業部までお問合せください。

259: This is an OEM license and you have incorrectly specified the OEM number.

OEM ライセンス機能を最初に呼び出さずに、初期設定の呼び出しを行ったか、ライセンス機能の呼び出しの際に OEM 番号を間違えて指定した可能性があります。正しい初期設定手順を使用しているかどうか OEM のマニュアルを参照しご確認ください。注: Xpress-MP 2003 より以前にリリースされている OEM 番号は Xpress-MP 2003 では無効です。

上記の可能性がある場合、MSI Xpress 事業部に OEM 番号がサポートされているかお問合せください。

#### 14.1 ライセンス設定でエラーが生じた場合のトラブルシューティング

Xpress ライセンスを設定する際にトラブルが生じた場合に、トラブルとなっている問題点をエラーメッセージとして表示されます。

Floating ライセンスの場合、このエラーメッセージと併せて現行のエラーメッセージを確認するために xprl\_server.log のログファイルもご確認ください。

ライセンス・サーバーが起動しない場合、ほかのエラーを確認するために Windows event ログをご確認ください。(Unix システムは /var/log/messages で確認)

よくあるトラブル原因と解決策、エラーメッセージについて、先のセクションを参照してください。14章のセクション内に解決策が見当たらず、問題が解決しない場合は、下記のステップを試行してください。

1. Xpress 最新バージョンにアップグレードする

2. イーサネットのアドレスで固定されたライセンスでポータブル式 Windows マシンを使用している場合、ネットワークに接続していない環境下で問題が生じているのであれば Media Sense が使用可能な状態になっている可能性があります。通常、Media Sense は電池を節約するためにマシンがネットワークに接続されていないときに、イーサネットのカードを使用不可の状態に切り替えます。この問題を解決するには、Microsoft の WEB サイトに掲載されている手順に従って、Media Sense の状態を確認してください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;EN-US;q239924>



3. Windows-XP を実行し、Xpress の Host-ID 取り出しツールで Host-ID を抽出できない場合、ネットワーク・アダプタがブリッチ接続になっていることが考えられます。これを修正するために、コントロールパネルから、「ネットワークとインターネットの接続」を選択し、「ネットワークの接続」をクリックしてください。（これは管理者のセットアップによって異なります。コントロールパネルをダブルクリックで開くと同じように、ネットワークの接続画面を開くには、ダブルクリックが必要な場合もあります。）表示画面にネットワーク・ブリッチ接続というセクションがある場合、ネットワーク・ブリッチ接続のアイコンをクリックし、削除を選択してください。

削除を行ったのち、再度、PC の Host-ID を抽出するために、Xpress Host-ID ツールを再実行してください。

上記以外のエラーについては MSI Xpress 事業部までご連絡ください。

お問合せの際、表示されたエラーメッセージやお使いの Xpress バージョン、

OS、ライセンス情報、ライセンスタイプも併せてメールに記載ください。

担当者より折り返し、ご連絡致します。

## **15 アプリケーションと Enterprise (企業向け) ライセンスの設定**

Xpress7.0 およびそれ以降にリリースした製品は仮想化ハードウェア上で enterprise (企業向け) ライセンスの設定をサポートしています。

### **① 仮想化のレコメンデーション**

仮想化は一般的に、資源を統合するためにサーバー環境に配置されます。前述で解説したドングルの制限によりサーバー環境でのドングル使用は不向きです。

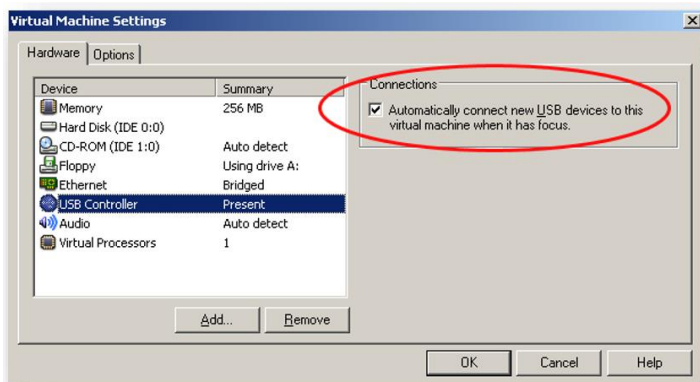
FICO 社はこの構成設定はお客様のライセンス契約条件に従い、ライセンスを配給する際に、

Floating ライセンスまたはエンタープライズ (企業向け) ライセンスを仮想化テクノロジーと共に導入することを推奨しております。

ライセンス・サーバはホスト・オペレーションシステムにサービスとしてインストールを行うか、ハードウェアにロックされたほかの物理マシン上にインストールすることができます。こうすることでローカルネットワーク上で必要不可欠であるように、バーチャル・ゲスト・オペレーションシステムはライセンスを要求できるようになります。

### **15.1 VMware で HASP ドングルを使用する**

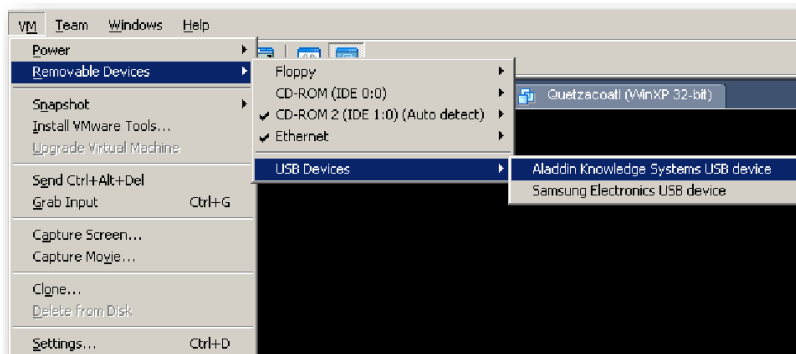
1. VMware 環境で実行する仮想マシンからドングルを使用するには、仮想マシンの設定を開き、オプションでこの仮想マシンにフォーカスを移す際、自動的に新しい USB デバイスへの接続が行われるように、下記のように選択してください。



このオプションがアクティブな状態で、仮想マシンにフォーカスが当たっている間、プラグに差し込んだいかなる USB 機器に接続されるのではなく、オペレーションシステムに接続される状態になります。

2. 現在、Xpress を正常にインストールすることができます。インストーラの実行中にライセンスにドングルを使用するかを選択する画面が表示されます。「ライセンスキーにハードウェア・ドングルを使用する」を選択してください。ここでマシンにドングルを装着して設定を行う場合は、仮想マシンのウインドウをクリックして、ドングルにフォーカスを設定します。Xpress を起動させた際に、この設定によりオペレーションシステムに接続され検知されるようになります。

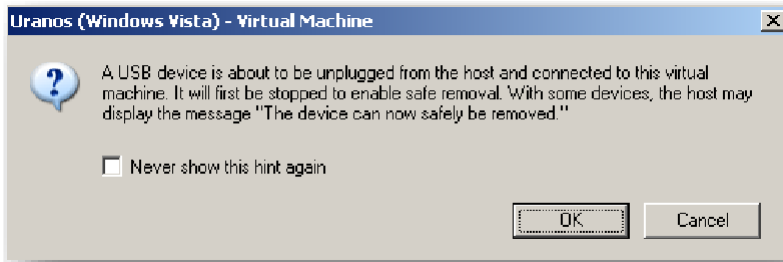
3. 万が一、仮想マシンにフォーカス設定がない場合、ドングルをプラグに差し込めば、上記の設定の代わりにホスト・オペレーションシステムに接続されることがあります。これをホストから切り離し、仮想マシンに接続するために VMware から VM メニューを表示し、下記のように、Removable Devices と USB Devices ではなく、Aladdin Knowledge Systems USB Device を選択してください。



4 ドングルをホストから切り離し、ドングルを仮想マシンへの再接続を促されます。

OK をクリックしてください。

上記の設定が完了すると、ドングルライセンスを使用し、Xpress をご利用いただける状態となります。



## 15.2 Microsoft Virtual PC で HASP ドングルを使用する

**警告:**ハードウェア・ドングルは現在、Microsoft Virtual PC をサポートしていません。(Microsoft Virtual PC2007 を含む)また Virtual PC を使用して仮想マシンに HASP ドングル・ドライバをインストールしないでください。仮想マシンの破損や最悪な場合、ブート不可能が生じたケースが報告されています。Xpress インストーラの表示画面でライセンス設定をハードウェア・ドングルを使用するか否かを選択する画面が表示されます。No を選択してください。

Microsoft Virtual Server で HASP ドングルを使用する

Microsoft Virtual Server は現在、ドングルを含め、いかなる USB デバイスもサポートしていません。(キーボード、マウスを除く)Microsoft Virtual Server 経由でドングルライセンスし Xpress をご利用頂くことはできません。

## 16. データベース

Mosel はファイル、データベースおよび WEB サービスを経由しメモリ内のデータに接続することができます。この機能はいかなる ODBC に対応するデータソースにも接続可能です。指定の Oracle ドライバおよび DAT 形式と同様、Excel、CSV、XML、JSON 向けドライバも付属しています。お客様はカスタム・ドライバを実装し Mosel のフリー形式、読み込み/書き込み機能もご利用頂けます。

## 17 Xpress のアップグレード、Patch ファイルの適用方法

### ◎Patch のインストール (Windows)

Patch またはメンテナンス・リリースは Xpress ソフトウェアの部分的修正やバグの修正、機能の改善、新機能追加を目的にアップグレードしたファイルのみを含みます。

大幅なメンテナンス・リリースは FICO Xpress ウェブサイトからダウンロードできます。

インストーラとセットで提供しています。Patch リリース (個別のファイルやプログラム)

は FICO Xpress ftp サイトに掲載しています。FICO Xpress の旧インストールに適用してください。

1. XpressXX\_win32(64)\_setup.exe を実行します。

2. Zip 圧縮/解凍プログラム (WinZip または WinRar) を使用して、Patch ファイルを解凍します。通常、解凍したファイルはライブラリに置換されるか Xpress Installation の bin フォルダに実行ファイル形式で保存されるかインストールの dso フォルダに .dso ファイルとして保存されます。ファイルの置換先が決まっている場合、デフォルトの格納先からユーザ指定の格納先にファイルをコピーしてください。(既存ファイルに上書き保存します。)古いファイルを今後でも使用したい場合、古いファイルに新しい名前を付けて、保存します。

新しいファイルの格納先が決まっていない場合、ファイル名を使用して Xpress インストール・ディレクトリから検索します。次の操作を行ってください。Xpress installation フォルダを右クリックし表示されたメニューから検索を選択してください。ファイル名ボックスのすべて、または部分に置換するファイル名を入力し検索 (Search) をクリックします。検索結果として表示されるリストは、Xpress installation の格納先を示します。Installation 内の正確な格納場所に Patch が置換されると、ソフトウェアは正常に実行されアップデートしたファイルが自動的に起動します。

注: Xpress の複数のコピーを1つのシステムにインストールする場合、Patch を適用するフォルダが正しいものであり、XPRESS、PATCH および MOSEL\_DSO 環境変数が正しいフォルダを示していることをご確認ください。

3. Xpress のインストール目的を選択します。アップグレードを (または Patch ファイル

の適用) 選択をしてください。Patch、アップグレードを適用する Xpress アプリケーションも選択します。

4. Installshield Wizard を使用し、Xpress のインストールを開始します。

インストールを続行する場合、「Next」をクリックし、前の画面に戻る場合「Back」をクリックします。

上記以降の設定方法は、お客さまが取得しているライセンスタイプによって異なります。

Static ライセンスの設定は、P8～P10

Floating ライセンスの設定は P11～P19 に掲載されている手順を参照ください。